

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月28日

【事業年度】 第132期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

【会社名】 高砂熱学工業株式会社

【英訳名】 Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 大内 厚

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地5

【電話番号】 (03)3255-8212(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員経理本部長兼総務本部担当 島 泰 光

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地5

【電話番号】 (03)3255-8214

【事務連絡者氏名】 経理本部財務部長 齋藤 哲胤

【縦覧に供する場所】 高砂熱学工業株式会社 大阪支店
(大阪市北区茶屋町19番19号(アプローズタワー))

高砂熱学工業株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅1丁目1番4号
(JRセントラルタワーズ))

高砂熱学工業株式会社 横浜支店
(横浜市西区みなとみらい2丁目2番1号
(横浜ランドマークタワー))

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第128期	第129期	第130期	第131期	第132期
決算年月		平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月
売上高	(百万円)	243,376	214,215	209,298	213,175	215,464
経常利益	(百万円)	6,180	8,161	6,438	5,910	6,695
当期純利益	(百万円)	2,978	2,805	4,341	3,003	4,269
包括利益	(百万円)				1,015	5,276
純資産額	(百万円)	88,078	81,218	82,713	81,786	85,771
総資産額	(百万円)	209,452	196,879	188,151	175,166	197,434
1株当たり純資産額	(円)	1,062.01	1,004.87	1,064.33	1,052.62	1,105.66
1株当たり当期純利益	(円)	36.03	34.27	54.03	38.72	55.23
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)					55.19
自己資本比率	(%)	41.9	41.1	43.9	46.6	42.6
自己資本利益率	(%)	3.3	3.3	5.3	3.7	5.2
株価収益率	(倍)	21.5	17.6	13.7	19.0	11.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,130	2,430	8,604	5,939	569
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,855	1,260	472	1,443	556
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,062	5,289	4,783	2,273	1,157
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	24,773	22,759	27,091	20,232	19,064
従業員数	(名)	2,249	2,461	2,562	2,617	4,085

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第128期、第129期、第130期および第131期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 請負工事に係る収益の計上基準については、平成22年3月期より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号)および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号)を適用しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第128期	第129期	第130期	第131期	第132期
決算年月	平成20年 3 月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月
完成工事高 (百万円)	216,446	192,647	188,742	192,203	195,049
経常利益 (百万円)	5,159	8,107	5,960	5,450	5,280
当期純利益 (百万円)	2,543	3,285	4,353	2,856	2,400
資本金 (百万円)	13,134	13,134	13,134	13,134	13,134
発行済株式総数 (株)	85,765,768	85,765,768	85,765,768	85,765,768	85,765,768
純資産額 (百万円)	81,973	76,165	77,706	76,731	77,599
総資産額 (百万円)	196,192	184,575	174,682	162,541	177,414
1株当たり純資産額 (円)	992.01	945.06	1,001.68	989.15	1,014.80
1株当たり配当額 (円)	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00
(うち1株当たり 中間配当額) (円)	(10.00)	(12.50)	(12.50)	(12.50)	(12.50)
1株当たり当期純利益 (円)	30.78	40.14	54.18	36.83	31.02
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					31.00
自己資本比率 (%)	41.8	41.3	44.5	47.2	43.7
自己資本利益率 (%)	3.0	4.2	5.7	3.7	3.1
株価収益率 (倍)	25.1	15.0	13.7	20.0	20.8
配当性向 (%)	81.2	62.3	46.1	67.9	80.6
従業員数 (名)	1,531	1,678	1,770	1,817	1,845

(注) 1 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。

2 第128期、第129期、第130期および第131期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 平成20年3月期の1株当たり配当額25.00円には、記念配当5円を含んでおります。

4 請負工事に係る収益の計上基準については、平成22年3月期より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号)および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号)を適用しております。

2 【沿革】

大正12年11月	旧高砂工業株式会社煖房工事部の権利義務の一切を継承して高砂煖房工事株式会社として設立。
昭和18年7月	高砂熱学工業株式会社に改称。
昭和24年3月	大阪支店開設。
昭和24年10月	建設業法による建設大臣登録(イ)第558号の登録を完了。(以後2年ごとに登録更新)
昭和27年3月	札幌出張所開設。(昭和43年4月支店に昇格)
昭和27年8月	名古屋出張所開設。(昭和34年3月支店に昇格)
昭和34年2月	九州出張所開設。(昭和47年4月支店に昇格)
昭和42年4月	東北出張所開設。(昭和48年4月支店に昇格)
昭和44年11月	東京証券取引所の市場第二部に上場。
昭和46年11月	大阪証券取引所の市場第二部に上場。
昭和47年3月	日本開発興産株式会社を設立。(現・連結子会社)
昭和47年4月	日本ピーマック株式会社を設立。(現・連結子会社)
昭和47年9月	日本エスエフ株式会社を設立。(昭和53年4月日本フレクト株式会社に社名変更)
昭和48年8月	東京証券取引所、大阪証券取引所の市場第一部に指定替。
昭和49年12月	建設業法改正により、建設大臣許可(特、般-49)第5708号の許可を受ける。(以後3年ごとに許可更新)
昭和55年4月	海外事業本部開設。(昭和58年7月事業部に改組。平成17年9月事業本部に昇格)
昭和55年11月	T.T.E.エンジニアリング(マレーシア)Sdn.Bhd.を設立。(現・非連結子会社)
昭和59年7月	タイタカサゴCo.,Ltd.を設立。(現・連結子会社)
昭和59年12月	厚木市に総合研究所新設。
昭和62年1月	横浜支店開設。
平成元年4月	広島支店開設。
平成3年4月	関東支店開設。(平成23年3月廃止)
平成6年3月	高砂熱学工業(香港)有限公司を設立。(現・非連結子会社)
平成7年6月	タカサゴフィリピンInc.を設立。(提出日現在、清算手続き中)
平成12年3月	高砂メンテナンス株式会社を設立。(平成20年6月高砂エンジニアリングサービス株式会社に社名変更)(現・連結子会社)
平成15年7月	中電高砂工程諮詢有限公司を設立。(提出日現在、清算手続き中)
平成15年7月	高砂建築工程(北京)有限公司を設立。(現・連結子会社)
平成17年4月	タカサゴシンガポールPte.Ltd.を設立。(現・連結子会社)
平成17年12月	国土交通大臣許可(特、般-17)第5708号の許可(更新)を受ける。(以後5年ごとに許可更新)
平成18年4月	関信越支店開設。
平成18年4月	産業空調事業本部開設。
平成19年4月	タカサゴベトナムCo.,Ltd.を設立。(現・非連結子会社)
平成20年10月	日本フレクト株式会社を株式の追加取得により子会社化。(平成21年1月日本フロダ株式会社に社名変更)(現・連結子会社)
平成21年1月	海外事業本部アブダビ支店開設。(平成23年3月閉鎖)
平成22年3月	大阪証券取引所における株式上場を廃止。
平成23年4月	3事業本部制(東日本、西日本、エンジニアリング)を導入。
平成24年2月	日本設備工業株式会社を株式の取得により持分法適用関連会社化。(現・持分法適用関連会社)
平成24年3月	株式会社丸誠を株式の追加取得により連結子会社化。(現・連結子会社)

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社10社、持分法適用関連会社1社、持分法非適用非連結子会社7社、持分法非適用関連会社1社で構成され、設備工事業、設備機器の製造・販売事業を主な事業内容としております。

当社グループの事業に係る位置付けおよびセグメントとの関連は、次のとおりであります。

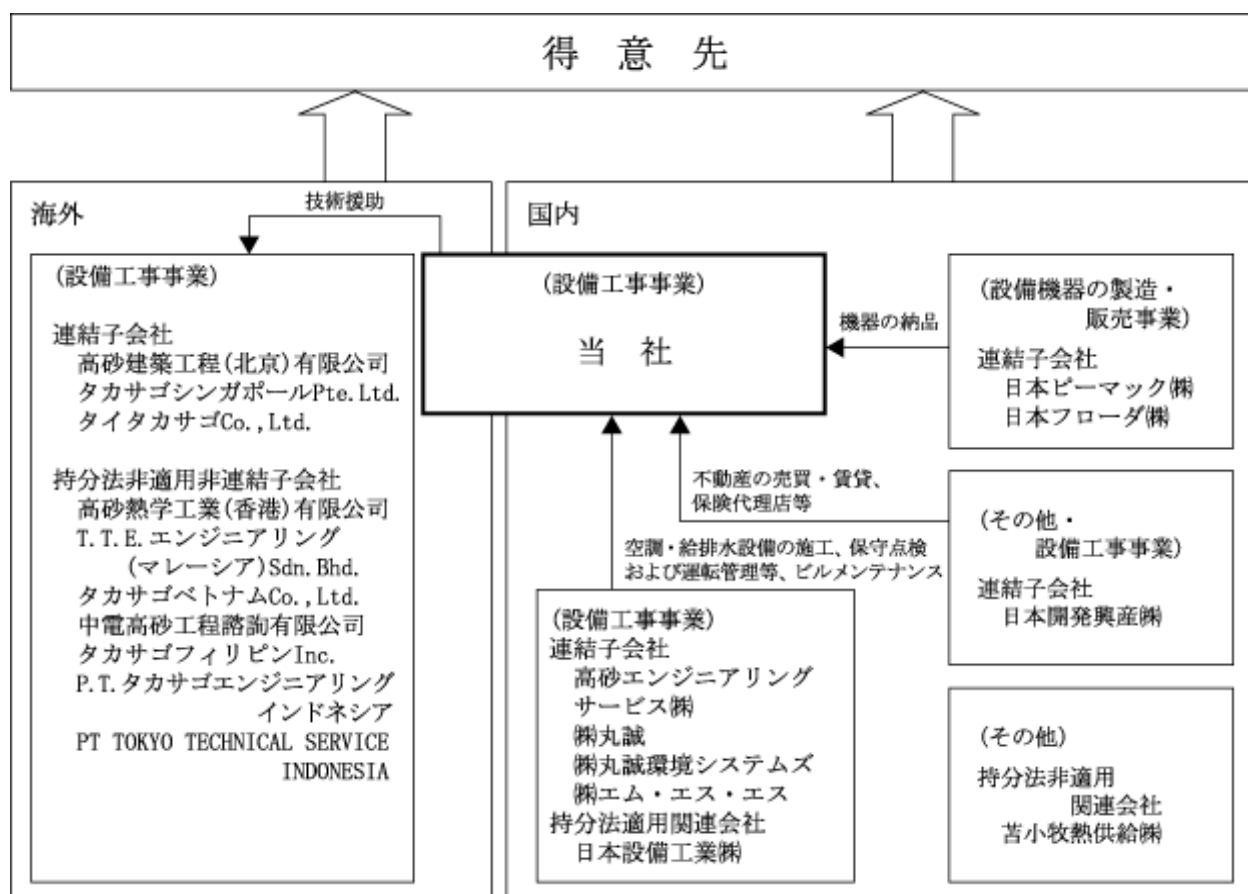
なお、セグメントと同一の区分であります。

設備工事業 当社は空調設備の技術を核として、その設計・施工を主な事業としており、高砂エンジニアリングサービス㈱(連結子会社)は、空調設備の保守・点検、運転管理等を、㈱丸誠(連結子会社)および同社の連結子会社である㈱丸誠環境システムズならびに㈱エム・エス・エスは、ビルメンテナンスを行っております。また、持分法適用関連会社である日本設備工業㈱は、空調・給排水設備の設計・施工を行っております。一方、海外においては、連結子会社である高砂建築工程(北京)有限公司、タカサゴシンガポールPte.Ltd.、タイタカサゴCo.,Ltd.のほか非連結子会社3社が空調設備の設計・施工を行い、当社はこれら在外子会社に対して技術援助を行っております。

設備機器の製造・販売事業 日本ピーマック㈱(連結子会社)および日本フローダ㈱(連結子会社)は、空調機器等設計・製造・販売の事業を行っております。

その他 日本開発興産㈱(連結子会社)は、不動産の売買・賃貸、保険代理店等の事業を行っております。また、持分法非適用関連会社である苫小牧熱供給㈱は、熱供給事業を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 持分法非適用非連結子会社として中電高砂工程諮詢有限公司、タカサゴフィリピンInc.、P.T.タカサゴエンジニアリングインドネシアおよび㈱丸誠の持分法非適用非連結子会社である PT TOKYO TECHNICAL SERVICE INDONESIA がありますが、平成24年3月末現在営業を停止し、清算手続き中であります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) 高砂エンジニアリング サービス(株)	東京都千代田区	100	設備工事業	100.00		営業上の取引 当社施工建物の保守・点検・運 転管理等 役員の兼任 無し
(株)丸誠 (注) 2	東京都新宿区	419	設備工事業	65.99		営業上の取引 当社施工建物の保守・点検 役員の兼任 当社従業員 1名
(株)丸誠環境システムズ	東京都新宿区	50	設備工事業	65.99 (65.99)		役員の兼任 無し
(株)エム・エス・エス	東京都新宿区	30	設備工事業	65.99 (65.99)		役員の兼任 無し
高砂建築工程(北京) 有限公司	中華人民共和国 北京市	人民元 25,533千	設備工事業	100.00		営業上の取引 当社からの技術援助 役員の兼任 当社従業員 2名
タカサゴシンガポール Pte.Ltd.	シンガポール	US\$ 5,578千	設備工事業	100.00		営業上の取引 工事施工に伴う機器の一部を 当社に発注 当社からの技術援助 工事履行保証等 役員の兼任 当社従業員 2名
タイタカサゴCo.,Ltd. (注) 3	タイ・ バンコク	バーツ 20,000千	設備工事業	49.00		営業上の取引 工事施工に伴う機器の一部を 当社に発注 当社からの技術援助 銀行借入保証等 役員の兼任 当社従業員 1名
日本ピーマック(株)	神奈川県厚木市	390	設備機器の製造 ・販売事業	100.00		営業上の取引 当社の工事施工に伴う機器 の納入 役員の兼任 無し
日本フローダ(株)	東京都千代田区	200	設備機器の製造 ・販売事業	100.00		営業上の取引 当社の工事施工に伴う機器 の納入 役員の兼任 当社従業員 1名
日本開発興産(株)	東京都千代田区	50	その他	100.00		営業上の取引 当社の工事施工に伴う機器 の納入 リース債務の保証等 当社所有建物の管理委託 役員の兼任 当社従業員 3名
(持分法適用関連会社) 日本設備工業(株)	東京都千代田区	460	設備工事業	34.55		営業上の取引 当社の工事施工に伴う工事の 一部を受注 役員の兼任 無し

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
2 有価証券報告書の提出会社であります。
3 所有割合は100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。
4 議決権所有(被所有)割合欄の括弧内は間接所有割合を内数で示しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
設備工事業	3,790
設備機器の製造・販売事業	285
その他	10
合計	4,085

- (注) 1 従業員数は就業人員数であり、契約期間が1年以上の嘱託等の従業員および執行役員を含んでおります。
 2 前連結会計年度末に比べ従業員数が1,468名増加しております。主に、当連結会計年度から(株)丸誠および同社の完全子会社2社(株)丸誠環境システムズ、(株)エム・エス・エス)を連結子会社に加えたことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,845	42.7	19.0	7,974

- (注) 1 提出会社は、「設備工事業」以外営んでいないため、セグメントに分類せず、記載しております。
 2 従業員数は就業人員数であり、契約期間が1年以上の嘱託等の従業員および執行役員を含んでおります。
 3 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

提出会社の労働組合は、高砂熱学職員組合と称し、昭和22年6月1日に結成され、昭和49年6月19日法内組合となりました。平成24年3月31日現在の組合員数は1,158名であり、上部団体には所属していません。会社との関係においても結成以来、円滑な関係を維持しており、特記すべき事項はありません。

また、一部国内連結子会社についても労働組合があり、労使関係は円滑な関係を維持しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、設備投資や生産に持ち直しの動きが見られたものの、貿易収支は弱含み、円高やデフレなどの影響もあり、雇用・所得環境に大きな改善は見られず、国内景気は厳しい状況のまま推移いたしました。

当社関連の空調業界におきましては、公共投資および産業設備やリニューアルなど一部の民間設備投資は比較的堅調に推移したものの、新築オフィスビル等の一般設備に投資抑制が見られた結果、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような状況のもとで、当社およびグループ各社は、今年度からの3か年中期経営計画に基づき、総力を挙げて採算性重視の受注活動、リニューアルやエンジニアリングといった重点分野への経営資源集中、設計・施工技術力の強化、資材調達合理化、あらゆるコスト削減など収益力の強化に取り組んでまいりました。また、東日本大震災およびタイの洪水に際しましては、発生直後からグループを挙げて顧客設備の復旧等に機動的に対応いたしました。

当社においては、顧客にきめ細やかなサービスを機動的に提供するために、支店を束ねる事業本部制を導入し、機能を横断した組織へと体制を改め、経営の強化を図りました。また、建築設備の企画から新築、アフターサービスを経てリニューアルまでのライフサイクルにわたるワンストップサービスの実現に向けて、他の企業との業務および資本提携の強化に取り組んでまいりました。

平成24年2月に、当社の主要な協力会社として長らく協働関係を構築してきた日本設備工業株式会社の普通株式を取得し、同社を持分法適用関連会社といたしました。これにより当社グループは、同社が有する機動的な組織力および主に小型リニューアル工事に関する施工管理能力を活用して、顧客の価値を創造するきめ細やかなサービスを提供し、顧客からの信頼をさらに高めるとともに、同社の商圏等との相乗効果を通じて業容の拡大を図ってまいります。

また、平成24年3月には、平成19年から業務資本提携関係にある株式会社丸誠（コード番号：2434、JASDAQ市場（スタンダード））との提携を強化することを目的として、同社の普通株式を公開買付けにより取得して連結子会社とするとともに、従前の資本業務提携契約の内容を変更いたしました。これにより当社グループは、同社が有する保守管理や運転監視などの設備管理やそれらの遂行体制のノウハウを活用し、設備総合管理事業を強化してまいります。

なお、平成22年10月下旬、当社が受注していた空調設備工事において、下請負作業員による施工の過程で発生いたしました顧客の施設に損害を与える事象に関しましては、関係当事者との協議を進めてまいりました結果、平成23年12月に最終的な損害補償額が確定し、解決することとなりました。

なお、本有価証券報告書に記載の金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

売上高は215,464百万円（前連結会計年度比+1.1%）となり、営業利益は売上高の増加等により5,214百万円（前連結会計年度比+0.2%）、経常利益は持分法による投資利益を営業外収益に計上したことなどにより6,695百万円（前連結会計年度比+13.3%）、当期純利益は負ののれん発生益等を特別利益に計上した結果、4,269百万円（前連結会計年度比+42.1%）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。（以下、セグメントごとの金額については、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。）

（設備工事業業）

売上高は208,373百万円（前連結会計年度比+1.1%）となり、セグメント利益（営業利益）は4,734百万円（前連結会計年度比+1.8%）となりました。

（設備機器の製造・販売事業）

売上高は8,389百万円（前連結会計年度比+6.2%）となり、セグメント利益（営業利益）は423百万円（前連結会計年度比+38.3%）となりました。

（その他）

売上高は210百万円（前連結会計年度比+0.4%）となり、セグメント利益（営業利益）は52百万円（前連結会計年度比+2.2%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、19,064百万円（前連結会計年度末比 1,168百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、569百万円の収入（前連結会計年度末は5,939百万円の支出）となりました。これは主に売上債権の増加が仕入債務の増加を上回ったものの、税金等調整前当期純利益により、収入超過となったものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、556百万円の支出（前連結会計年度末は1,443百万円の収入）となりました。これは主に関係会社株式の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,157百万円の支出（前連結会計年度末比 + 1,115百万円）となりました。これは主に配当金の支払いによるものであります。

（注）「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示しております。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 受注高

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) (百万円)	前連結会計年度比(%)
設備工事業	200,343	214,096	6.9
設備機器の製造・販売事業	6,779	7,166	5.7
その他	161	168	4.5
合 計	207,283	221,431	6.8
(うち海外)	(10,958)	(15,894)	(45.0)

(2) 売上高

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) (百万円)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) (百万円)	前連結会計年度比(%)
設備工事業	206,193	208,372	1.1
設備機器の製造・販売事業	6,820	6,922	1.5
その他	161	168	4.5
合 計	213,175	215,464	1.1
(うち海外)	(12,206)	(10,853)	(11.1)

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 当社グループでは生産実績を定義することは困難であるため、「生産の状況」は記載しておりません。

なお、参考のため、提出会社の事業の状況は、次のとおりであります。

設備工事業における受注工事高および完成工事高の状況

受注工事高、完成工事高および繰越工事高

期別	区分	前期繰越 工事高 (百万円)	当期受注 工事高 (百万円)	計 (百万円)	当期完成 工事高 (百万円)	次期繰越 工事高 (百万円)
前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	一般設備	128,786	135,698	264,485	145,343	119,141
	産業設備	24,380	51,775	76,156	46,859	29,297
	計	153,167	187,474	340,642	192,203	148,438
当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	一般設備	119,141	136,238	255,380	139,838	115,541
	産業設備	29,297	59,505	88,802	55,210	33,591
	計	148,438	195,744	344,182	195,049	149,132

(注) 1 前事業年度以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額に変更あるものについては、当期受注工事高にその増減額を含んでいるため、当期完成工事高にもかかる増減額が含まれております。

2 次期繰越工事高は(前期繰越工事高+当期受注工事高-当期完成工事高)であります。

受注工事高

期別	区分	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	一般設備	20,533	115,165	135,698
	産業設備	796	50,979	51,775
	計	21,330	166,144	187,474
当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	一般設備	22,480	113,758	136,238
	産業設備	917	58,587	59,505
	計	23,398	172,345	195,744

(注) 受注工事高のうち、主なものは次のとおりであります。

前事業年度 受注金額10億円以上の主なもの

大成建設(株)	(仮称)湘南C-X A1街区SC新築工事
大成建設(株)	NHK名古屋放送センタービルオフィス階空調設備更新工事
(株)竹中工務店	大阪駅北地区先行開発区域プロジェクトBブロック
安藤建設(株)	医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院新築工事
東京都	東京国際フォーラム(22)空調設備改修工事

当事業年度 受注金額10億円以上の主なもの

鹿島建設(株)	愛知医科大学新病院等建設工事の内空調設備工事
北播磨総合医療センター	北播磨総合医療センター新築工事のうち機械設備工事
独立行政法人鉄道建設・ 運輸施設整備支援機構	北陸新幹線、新鉄融雪基地外2箇所機械設備工事
学校法人自治医科大学	自治医科大学本館リニューアル計画改修工事(空調)
鹿島建設(株)	二子玉川東地区再開発 - a街区

受注工事方法は、特命と競争に大別されます。これを受注金額比で示すと次のとおりであります。

期別	区分	特命(%)	競争(%)	計(%)
前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	一般設備	25.7	46.7	72.4
	産業設備	9.7	17.9	27.6
	計	35.4	64.6	100.0
当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	一般設備	28.2	41.4	69.6
	産業設備	9.8	20.6	30.4
	計	38.0	62.0	100.0

完成工事高

期別	区分	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	一般設備	23,503	121,840	145,343
	産業設備	656	46,203	46,859
	計	24,159	168,043	192,203
当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	一般設備	18,012	121,825	139,838
	産業設備	295	54,915	55,210
	計	18,308	176,741	195,049

(注) 1 完成工事高のうち、主なものは次のとおりであります。

前事業年度 請負金額19億円以上の主なもの

(株)大林組 大阪駅北ビル(仮称)新築工事に伴う空調設備工事
独立行政法人 国立国際医療センター 国立国際医療センター新棟整備第1期工事空気調和設備工事
国立国際医療センター
清水建設(株) 神戸医療センター市民病院新築工事
(株)大林組 大阪駅新北ビル(仮称)百貨店設備他工事新築に伴う空気調和設備工事
防衛省 瑞慶覧(H19)中央熱源棟新設機械工事

当事業年度 請負金額20億円以上の主なもの

東急建設(株) 渋谷新文化街区プロジェクト新築工事
鹿島建設(株) 北新宿市街地再開発事業1-2街区
鹿島建設(株) みなとみらい2-1中央地区4-2街区新築工事
大成建設(株) 横浜三井ビルディング新築工事
大成建設(株) テラスモール湘南新築工事

2 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先別の完成工事高およびその割合は、次のとおりであります。

前事業年度	鹿島建設(株)	23,935百万円	12.5%
	(株)竹中工務店	22,083百万円	11.5%
当事業年度	該当事項はありません。		

手持工事高(平成24年3月31日現在)

区分	官公庁(百万円)	民間(百万円)	計(百万円)
一般設備	25,286	90,254	115,541
産業設備	763	32,828	33,591
計	26,050	123,082	149,132

(注) 手持工事高のうち、請負金額20億円以上の主なものは、次のとおりであります。

戸田建設(株)	大手町一丁目第2地区第一種市街地再開発事業 (B棟)空調設備工事	平成24年9月完成予定
清水建設(株)	大手町一丁目第2地区第一種市街地再開発事業 (A棟)空調工事	平成24年9月完成予定
(株)竹中工務店	新飯野ビル計画	平成26年11月完成予定
(株)大林組	梅田北ヤードA街区ON Y計画新築工事(熱源設備)	平成25年3月完成予定
鹿島建設(株)	愛知医科大学新病院等建設工事の内空調設備工事	平成26年2月完成予定

3 【対処すべき課題】

(1) 当面の対処すべき課題の内容等

当社を取り巻く事業環境の今後の見通しにつきましては、各種政策効果等を背景に、国内では緩やかな景気回復が期待されるものの、原油価格の上昇等を背景とした世界景気の下振れ懸念やデフレの影響など不透明な要因も多く、予断を許さない状況が続くものと思われま

す。空調業界におきましては、公共投資、民間設備投資ともに、持ち直し傾向で推移することが予想されるものの、競争激化により、厳しい経営環境が続くものと思われま

す。このような情勢のもと、当社グループは、採算性重視の受注活動とコストダウンの継続および重点分野への経営資源集中により、収益力の一層の強化と経営の効率化を図るとともに「顧客最優先」「現場第一主義」の考えに基づき、全役職員の衆知を結集して、平成25年度の中期経営計画達成に取り組んでまいります。

当社グループは、技術力と現場力をあわせた総合エンジニアリング力を駆使し、需要を喚起・創出する企画提案型の営業活動であるセールス・エンジニアリングを強化いたします。建築設備の企画から新築、アフターサービスを経てリニューアルまでのライフサイクルにわたり、ハードだけでなく各種サービスを提供するワンストップサービスと、空調だけでなく衛生、電気等の周辺設備工事もあわせて提供するワンストップサービス、この「二つのワンストップサービス」を通じて差異化を図ってまいります。

特に、省エネルギー・環境対策に関する環境ソリューション事業を強化し、主力事業である空調設備工事との相乗効果を図りつつ、エコロジーとエコノミーを両立させる取組みの強化を通じて地球環境保全と低炭素社会実現に貢献する、環境ソリューション企業 1 を目指してまいります。

海外展開に関しましては、各現地法人を効率のかつ機動的に統括管理する部門を中国およびシンガポールに設置し、国内製造拠点等の海外移転の動きに対応するべく、事業の強化をさらに進めてまいります。

当社はCSR経営推進の一環として、平成24年4月に「CSR活動計画」を策定し、より計画的な活動および体系的な運用体制の整備に取り組ま

す。また、従来の「環境経営理念」については、より深化させたものとして平成24年4月に「環境基本規程」を改めて制定いたしました。社会の持続的発展を図りつつ地球環境保全に寄与するべく、エネルギー・資源の有効利用および環境負荷低減技術の開発ならびに利用を推進する環境保全活動を実施してまいります。

(2) 株式会社の支配に関する基本方針

基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えています。

当社は、創業以来、「最高の品質創り、特色ある技術開発、人材育成」という経営理念に基づき、一般空調、工場空調、地域冷暖房施設、原子力関連の空調設備、除湿設備など「熱と空気に関するエンジニアリング」を中心とした建築設備工事業を営んでおり、これらについて、独自の技術によって安全かつ高品質なサービスを提供し続けることにより、企業価値・株主共同の利益の確保・向上に努めてまいりました。

そして、当社の企業価値の源泉は、()高い技術力・開発力を持つ個々の社員と個々の社員の能力に基づく最先端かつ独創的な技術力・開発力、()空調・熱源設備の施工業者として蓄積してきたノウハウや実績、()長年にわたり培ってきた事業会社などの顧客や高い施工能力を有する協働会社との信頼関係、および()顧客重視・現場重視の企業文化および健全な財務体質を継続的に維持することによる優良な顧客の開拓・維持などにあります。

当社は、株式の大量買付であっても、当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。しかしながら、株式の大量買付の中には、対象会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。そして、当社株式の大量買付を行う者が上記の当社の企業価値の源泉を理解し、中長期的に確保し、向上させられる者でない場合には、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになります。

当社は、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

基本方針実現のための取組みの具体的な内容の概要

基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社取締役会は、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを実現するために、平成23年4月からの3か年中期経営計画を策定いたしました。この計画に基づき、建築設備の企画から新築、アフターサービスを経てリニューアルまでのライフサイクルにわたり、ハードだけでなく各種サービスを提供するワンストップサービスと、空調だけでなく衛生、電気等の周辺設備工事も併せて提供するワンストップサービス、この「二つのワンストップサービス」を通じて差異化を図り、顧客設備の省エネルギー・CO₂削減に貢献する環境ソリューション事業を展開しております。また、「顧客最優先」「現場第一主義」の考えに基づき、採算性重視の受注活動を推進するとともに重点分野への経営資源集中により、収益の拡大と持続的な成長を実現するべく事業構造改革を進めております。

平成24年3月期においては、省エネルギー・環境対策に注力した技術開発を行いました。冷却に要するエネルギーの増加が大きな課題となっているデータセンターにおいて、国内最高レベルの省エネルギー性を実現した空調システムを、株式会社関電エネルギーソリューションと共同で開発いたしました。リチウムイオン二次電池製造工場等の主要設備であるドライルームにおいて、高い除湿性能と省エネルギーを実現し、高品質かつ環境負荷が少なく、かつ低コストの除湿機「WINDS - 」を開発いたしました。また、節電対策として、エネルギーの「見える化」に加え、ピークカットやピークシフトなど建物全体の節電を総合的にコントロールする「総合節電システム」を開発いたしました。さらには、空調ドレン流路で発生するスライムによる漏水事故を防止するため、銀イオンを当社独自の方式により安定して溶出させることで高い抗菌効果を実現する「エイジークリーン」を開発いたしました。今後とも、省エネルギー・環境保全に資する新技術・新商品開発を継続してまいります。

コーポレート・ガバナンスにつきましては、取締役の人数削減・任期短縮を行うとともに、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確にし、迅速かつ機動的な経営を行うため、執行役員制度を導入しております。当社は、業務執行部門である取締役および執行役員が機動的な業務執行を行うこと、また、監査役、会計監査人および内部監査室が相互に連携をとり、実効性のある監査を行うことにより経営の透明性を高めております。

具体的取組みに対する当社取締役会の判断およびその理由

上記に記載した企業価値向上のための取組みやコーポレート・ガバナンスの強化といった各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針の実現に資するものです。従って、これらの施策は、基本方針に沿い、当社の株主共同の利益に合致するものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項として次のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の季節的変動

当社グループの売上高は、通常の営業形態として工事の完成時期が下半期に集中することにより、連結会計年度の下半期に売上高および利益が偏重するなど業績に季節的変動があります。

(2) 建設資材価格の変動リスク

当社グループは鋼材等建設資材を調達しておりますが、資材価格が高騰し、これを請負金額に反映することが困難な場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 海外事業に伴うリスク

当社グループが事業を展開する中国・東南アジア地域においては、予期しえない法的規制や変更、政治不安および経済変動等不測の事態が発生した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があるなどカントリーリスクが存在しています。

(4) 不採算工事の発生によるリスク

工事施工段階での想定外の追加原価等により不採算工事が発生した場合には、工事損失引当金を計上することなどにより業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 施工中の事故、災害リスク

工事の安全衛生や品質管理には万全を期しておりますが、施工中の災害または事故等により、損害賠償、瑕疵担保責任等が発生する可能性があります。当社グループは不測の事態に備えて包括賠償責任保険に加入しておりますが、多額の損害賠償金が発生した場合には業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 取引先の信用リスク

施工済みの工事代金を受領する前に受注先が倒産した場合には、未受領の工事代金の全額回収が不可能となり、業績に影響を及ぼす可能性があります。また、施工中に協力会社が倒産した場合には工事の進捗に支障を来すとともに、追加費用が発生し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 資産保有リスク

当社グループは不動産や有価証券等の資産を保有しておりますが、取引先を中心とした市場性ある株式は価格変動リスクを負っております。当連結会計年度末時点での市場価額との評価差額（税効果会計の適用前）は16億73百万円の含み益であり、今後の時価の動向次第によりこれらの数値は変動します。また、大幅な時価の下落が生じた場合、減損が発生する可能性があります。

(8) 退職給付制度に関するリスク

年金資産および信託の下落や運用利回りの悪化、割引率等数理計算上で設定される前提に変更があった場合には、退職給付費用および退職給付債務が発生し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 自然災害によるリスク

当社が事業を展開する地域において、地震等の大規模自然災害の発生に伴い、工事の中断や大幅な遅延等の事態が生じた場合、事業所において営業の継続に支障をきたす重大な損害が生じた場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当連結決算年度の研究開発活動は、震災以降加速する節電、省エネルギー、事業継続等の顧客ニーズに対応するべく、ビル設備のエネルギー統合管理システム、熱エネルギーの高效率利用システム、省エネルギー性と快適性・利便性を追求した温度成層型空調システム、リチウムイオン二次電池製造工程向けの低露点清浄空気供給システム等の分野で研究開発を強化しています。

当連結会計年度における当社グループの研究開発費の総額は、996百万円でありました。

セグメントごとの主な成果は、次のとおりであります。

(設備工事業)

(1) 総合節電システム

昨夏の節電への取組みにより大きな節電効果をもたらしたものの、そこで執務する人々に「節電疲れ」とも言える心身両面の負担を強いた一面もありました。これに対し当社では、室内環境を極力維持した無理のない節電を実現する「総合節電システム」の開発検証を終え、今夏の節電ニーズに応えるべく、平成24年6月より全店で販売を開始しております。このシステムは、電力のピークカットを行う「トータルデマンドコントローラ」と、電力のピークシフトを行う「エネルギーストレージユニット」で構成されます。トータルデマンドコントローラはデマンド予測に基づく5段階の節電制御と、中央監視との接続による、より細やかな節電制御が特徴で、気象予報による使用電力予測機能や簡易な中央監視の機能も有し、無理のない節電を安価な費用で実現します。エネルギーストレージユニットはリチウムイオン二次電池を利用したシステムで、夜間充電した電池を日中放電するピークシフトを当社固有の技術により系統連系なしで行えることが特徴であります（特許出願中）。トータルデマンドコントローラと組み合わせることで、電力使用状況やシーズンに応じた充放電、太陽光発電とのコラボレーションなど大きな可能性を有します。当面はトータルデマンドコントローラの販売を促進し、電池のコストがニーズと合致した時点でエネルギーストレージユニットも積極的に販売してまいります。

(2) SWITを用いた温度成層型クリーンルーム

JIS清浄度クラス6～8のクリーンルーム（CR）では、非一方向の室内気流（乱流型）で清浄度を確保しています。この乱流型では、汚染源からの発塵を室全体で混合希釈させるため、多くの給気風量を必要とします。一方、SWITは、暖かい空気は上に、冷たい空気は下に向かう自然原理を利用した温度成層型の空調システムです。このSWITの特徴をCRに適用したのが、温度成層型クリーンルームです。CR内で温度成層を形成し、粒径5 μm程度までの浮遊微粒子を機器などの発熱体から発生する熱気と共に室上部へと持ち上げ、作業域だけを清浄な環境に保ちます。その結果、従来の乱流型に比べて少ない給気風量で作業域の清浄度を同等に確保できる省エネルギー性の高い空調システムです。本システムの清浄度と省エネルギー性は、先行導入した2件の事例で実証しています。また、試算では、従来の乱流型に比べ新築で14%のエネルギー消費量の削減効果が見込まれます。本システムは、省エネルギーを図りながら作業域の清浄度を確保したい高発熱負荷の作業室、組立工程、検査工程、包装工程などに向けて平成23年11月から全店で展開しております。

(3) 省エネ型除湿機「WINDS - 」

当社は、リチウムイオン二次電池（LIB）工場の主要設備であるドライルーム設備の低コスト化・省エネルギー化への取組みとして、当社独自の省エネ型除湿機「WINDS」シリーズを主に自社施工のLIB工場向けに展開しています。今回新たに開発した「WINDS - 」は、除湿負荷が極めて大きな全外気式ドライルームの低コスト化・省エネルギー化を主目的として開発した新型除湿機です。除湿機内部の空気のフローや除湿プロセスを最適化し、従来の２段ロータ式除湿機に匹敵する高い除湿性能を単段ロータで実現するとともに、大幅な省エネルギー化を達成しました。従来の２段ロータ式除湿機に替えて単段ロータ式の「WINDS - 」を導入することで、イニシャルコストを20%以上削減、年間エネルギー使用量を最大40%削減できます。このWINDS - の開発により、WINDSシリーズのラインナップが一層充実いたしました。今後はLIB製造だけでなく有機ELパネル製造においてもドライルーム設備の需要増大が見込まれます。高品質かつ環境負荷の少ないドライルーム設備を実現するキーコンポーネントとして、本商品の市場展開に取り組んでまいります。なお、本商品は、平成23年9月1日から日本フロード(株)(連結子会社)を通じて販売を開始いたしました。

なお、当連結会計年度における研究開発費は、896百万円でありました。

(設備機器の製造・販売事業)

国内連結子会社において、高効率水熱源ユニットの開発を継続して行っております。

なお、当連結会計年度における研究開発費は、100百万円でありました。

(その他)

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたっては、決算日における資産・負債および収益・費用の数値に影響を与える見積りが行われている部分があります。貸倒引当金・退職給付引当金等の各種引当金、工事損失引当金の対象となる工事の完成引渡し時における損失および工事進行基準適用工事の予定利益率等に関する見積りならびに判断については、継続的に評価を行っております。

なお、見積りおよび判断・評価については、過去の実績や状況に応じて見直しを行っておりますが、不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

資産の状況

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて22,267百万円増加し、197,434百万円となりました。これは、主に受取手形・完成工事未収入金等および投資有価証券が増加したことによるものであります。

負債の状況

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて18,282百万円増加し、111,662百万円となりました。これは、主に支払手形・工事未払金等および未払金が増加したことによるものであります。

純資産の状況

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,984百万円増加し、85,771百万円となりました。これは、主に利益剰余金、少数株主持分およびその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(3) 経営成績の分析

当連結会計年度の「1 業績等の概要 (1) 業績」に記載のとおりであります。当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度を1.1%上回る215,464百万円となりました。用途別売上高の内訳は、設備工事事業のうち、一般設備は前連結会計年度を3.4%下回る142,700百万円、産業設備は前連結会計年度を12.3%上回る65,672百万円となりました。設備工事事業全体は前連結会計年度を1.1%上回る208,372百万円、構成比では売上高全体の96.7%を占めております。設備機器の製造・販売事業は前連結会計年度を1.5%上回る6,922百万円、構成比では3.2%となりました。また、その他は前連結会計年度を4.5%上回る168百万円、構成比では0.1%となりました。

利益面では、売上高の増加に加えて、売上総利益率が前連結会計年度を0.2ポイント上回る10.5%と工事採算の改善もあり、営業利益は前連結会計年度を0.2%上回る5,214百万円、経常利益は持分法による投資利益を営業外収益に計上したことなどにより、前連結会計年度を13.3%上回る6,695百万円となりました。また、税金等調整前当期純利益は負ののれん発生益等を特別利益に計上した結果、前連結会計年度を36.3%上回る7,292百万円、当期純利益は、前連結会計年度を42.1%上回る4,269百万円となりました。

(4) 資本の財源および資金の流動性についての分析

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの分析については、「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」をご参照下さい。

なお、当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、総額30億円の貸出コミットメント契約を締結しております。

(5) 経営者の問題意識と今後の方針

当社グループを取り巻く事業環境は、建設市場の縮小、受注競争激化の深刻化など厳しい状況が続くなか、当社グループは「顧客最優先」「現場第一主義」の考えに基づき、採算性重視の受注活動を推進するとともに重点分野への経営資源集中により、収益の拡大と持続的な成長を実現するべく事業構造改革を進めてまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は481百万円であり、セグメントごとの設備投資は次のとおりであります。

(設備工事事業)

当連結会計年度は、業務効率化を目的としたソフトウェアおよび研究開発用設備等を中心とする総額290百万円の設備投資を実施いたしました。

(設備機器の製造・販売事業)

当連結会計年度は、研究開発用設備等を中心とする総額183百万円の設備投資を実施いたしました。

(その他)

当連結会計年度は、建物および構築物等を中心とする総額7百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、上記の設備投資金額には、無形固定資産を含めて記載しております。

(注) 「第3 設備の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示しております。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 ・備品	土地			合計
					面積(m ²)	金額		
本社及び東京本店 (東京都千代田区) (注)1 (注)2	設備工事 事業	871	1	808	22,908	1,125	2,807	646
総合研究所 (神奈川県厚木市)		739	0	52	3,618	62	855	39

(注) 1 提出会社は、「設備工事業」以外営んでいないため、セグメントに分類せず、主要な事業所ごと一括して記載しております。

2 建物の一部を連結子会社以外から賃借しており、賃借料は777百万円であります。

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名 事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
		建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 ・備品	土地			合計
					面積(m ²)	金額		
高砂エンジニア リングサービス(株) 本社 (東京都千代田区)	設備工事 事業	0	-	17	-	-	18	269
(株)丸誠 (東京都新宿区)	設備工事 事業	63	-	28	557	162	254	965
日本ピーマック(株) 本社・工場 (神奈川県厚木市)	設備機器の 製造・販売 事業	515	94	49	9,132	158	817	129
日本フローダ(株) 本社 (東京都千代田区)	設備機器の 製造・販売 事業	1	7	21	-	-	30	49
日本開発興産(株) 本社 (東京都千代田区)	その他	151	-	1	584	677	830	10

(3) 在外子会社

記載すべき重要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の改修および除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所 名または登録認可金 融商品取引業協会名	内容
普通株式	85,765,768	85,765,768	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	85,765,768	85,765,768		

(2) 【新株予約権等の状況】

平成23年7月22日の取締役会決議に基づいて発行した会社法に基づく新株予約権は、次のとおりであります。

	事業年度末現在 (平成24年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年5月31日)
新株予約権の数	1,022 個	857 個
新株予約権のうち自己新株予約権の数		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数	102,200 株	85,700 株
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円(注)1	同左
新株予約権の行使期間	自平成23年8月12日 至平成53年8月11日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 489円(注)2 資本組入額 245円	同左
新株予約権の行使の条件	(注)3	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得 については、取締役会の承認 を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する 事項	(注)4	同左

- (注) 1 新株予約権の目的となる株式の数(以下「付与株式数」という。)は、100株であります。ただし、新株予約権を割り当てる日(以下「割当日」という。)以降、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。なお、かかる調整は、新株予約権のうち当該時点で行使されていない付与株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割または株式併合の比率}$$

また、上記の他、割当日後、当社が合併、会社分割または株式交換を行う場合、およびその他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合、当社は取締役会において必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

- 2 発行価格は、新株予約権の払込金額488円と新株予約権の行使時の払込金額1円を合算しております。

新株予約権の行使により株式を発行する場合の資本組入額

- (1) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。
- (2) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記(1)記載の資本金等増加限度額から上記(1)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

- 3 新株予約権の行使の条件

- (1) 新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した日(以下「地位喪失日」という。)の翌日以降、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合、新株予約権者は、地位喪失日の翌日から10日以内(10日目の日が営業日でない場合には翌営業日)に限り、新株予約権を行使することができる。
- (2) 上記(1)ただし書にかかわらず、本新株予約権者が新株予約権の行使期間内に死亡したことにより当社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した場合は、相続開始後6月以内に限り、その相続人が、当社所定の手続きに従い、当該本新株予約権者が付与された権利の範囲内で本新株予約権を行使できるものとする。ただし、相続人死亡による再相続は認めない。
- (3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができない。

- 4 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)または株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合には、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日および株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の各号に定める条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めることを条件とする。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

- (2) 新株予約権の目的となる再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

- (3) 新株予約権の目的となる再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記(注)1に準じて決定する。

- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの行使価額を1円とし、これに上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。

- (5) 新株予約権を行使することができる期間

組織再編行為の効力発生日から、新株予約権の行使期間に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金および資本準備金に関する事項
上記(注)2に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の承認を要するものとする。
- (8) 新株予約権の取得条項
以下の 、 、 、 または の議案につき株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は、取締役会決議がなされた場合)は、取締役会が別途定める日に、当社は、新株予約権者より無償で新株予約権を取得することができる。
当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
当社が分割会社となる分割契約または分割計画承認の議案
当社が完全子会社となる株式交換契約または株式移転計画承認の議案
当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
新株予約権の目的となる種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要することまたは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- (9) その他の新株予約権の行使の条件
上記(注)3に準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成3年4月1日～ 平成4年3月31日(注)	9,425,965	85,765,768	1,686	13,134	1,685	12,853

(注) 無償株主割当 1:0.1 による増加 7,633,980株
(発行日平成3年5月22日)
新株引受権付社債の権利行使による増加 1,791,985株
(平成3年4月～平成3年12月)

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府および 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		50	34	211	102	3	6,147	6,547	
所有株式数 (単元)		281,452	4,267	185,067	72,307	210	313,575	856,878	77,968
所有株式数 の割合(%)		32.85	0.49	21.60	8.44	0.02	36.60	100.00	

(注) 自己株式9,342,764株は「個人その他」に93,427単元、「単元未満株式の状況(株)」に64株を含めております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	5,700	6.64
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟)	4,230	4.93
高砂熱学従業員持株会	東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地5	3,807	4.43
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	3,099	3.61
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	2,346	2.73
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区内幸町1丁目1番5号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟)	2,177	2.53
高砂共栄会	東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地5	1,818	2.12
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,150	1.34
バンク オブ ニューヨーク ジー シーエム クライアント アカウ ント ジェイピーアールデイ ア イエスジー エフイー - エイシー (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	1,144	1.33
ザ バンク オブ ニューヨーク トリーター ジヤスデック ア カウント (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	AVENUE DES ARTS, 35 KUNSTLAAN, 1040 BRUSSELS, BELGIUM (東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)	1,021	1.19
計		26,496	30.89

(注) 1 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

3 上記のほか、自己株式が9,342千株(10.89%)あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,342,700 (相互保有株式) 普通株式 952,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 75,392,300	753,923	
単元未満株式	普通株式 77,968		
発行済株式総数	85,765,768		
総株主の議決権		753,923	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式64株を含めております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 高砂熱学工業株式会社	東京都千代田区神田駿河台 4丁目2番地5	9,342,700		9,342,700	10.89
(相互保有株式) 日本設備工業株式会社	東京都千代田区大手町1丁目 7番地2	750,000	22,800	772,800	0.90
(相互保有株式) 株式会社丸誠	東京都新宿区四谷1丁目1 番地	175,000		175,000	0.20
(相互保有株式) 株式会社サンセツ	東京都千代田区大手町1丁目 7番地2	5,000		5,000	0.00
計		10,272,700	22,800	10,295,500	11.99

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名または名称	名義人の住所
加入持株会における共有 持分数	高砂共栄会	東京都千代田区神田駿河台 四丁目2番地5

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、株式報酬型ストックオプションを採用しております。

当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであり、平成23年7月22日の取締役会において決議されたものであります。

その内容は、以下のとおりであります。

決議年月日	平成23年7月22日
付与対象者の区分および人数	当社取締役 11名 当社執行役員 23名 (当社取締役を兼任している者を除く)
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
新株予約権の目的となる株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号および会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成24年2月13日)での決議状況 (取得期間平成24年2月14日～平成24年3月23日)	1,250,000	875,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	1,150,000	716,450
残存決議株式の総数及び価額の総額	100,000	158,550
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	8.00	18.12
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	8.00	18.12

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	724	462
当期間における取得自己株式	47	27

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数を含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(ストック・オプションの権利行使)			16,500	12,465
保有自己株式数	9,342,764		9,326,311	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数を含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主への利益還元を経営上の最重要課題と位置づけ、収益性と資本効率性を高めつつ、安定した配当を行うことを基本方針としております。引き続き、連結純資産配当率(DOE) 2%をベースとして配当を行い、中期経営計画最終年度(平成26年3月期)においては、同指標2.2%を見通しております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の配当金につきましては、普通株式1株につき、中間配当金12円50銭および期末配当金12円50銭、合わせて通期25円の配当となります。この結果、当社における当事業年度の配当性向(連結)は45.3%、純資産配当率(連結)は2.3%となります。

内部留保資金につきましては、競争力強化のための技術開発や財務体質強化ならびに事業領域拡大等のための業務・資本提携の原資とするとともに、株主価値向上を図るため自己株式の取得等について機動的に取り組んでまいります。

なお、当社は「取締役会の決議により、毎年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に、中間配当をすることができる」旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年11月11日 取締役会決議	969	12.50
平成24年6月28日 定時株主総会決議	955	12.50

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第128期	第129期	第130期	第131期	第132期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	1,448	1,220	877	835	738
最低(円)	649	506	607	562	572

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月
最高(円)	670	641	670	666	668	675
最低(円)	601	593	614	620	616	643

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	社長 執行役員	大内 厚	昭和24年7月29日生	昭和50年4月 平成10年4月 平成16年4月 平成17年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年4月	当社入社 当社東京本店技術1部長 当社東京本店副本店長 当社大阪支店副支店長 当社執行役員 当社常務執行役員 当社大阪支店長 当社取締役常務執行役員 当社代表取締役社長社長執行役員 (現)	(注)2	47
取締役 副社長	副社長 執行役員 営業統括 兼 東日本 事業本部長	川田 信雄	昭和21年8月31日生	昭和44年4月 平成12年4月 平成17年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年4月 平成22年10月 平成23年4月 平成24年4月	当社入社 当社東京本店営業3部長 当社東京本店副本店長 当社執行役員 当社常務執行役員 当社営業本部長 当社取締役常務執行役員 当社取締役副社長副社長執行役員 (現) 当社首都圏営業本部長 当社首都圏事業本部長兼首都圏事 業本部首都圏営業本部長 当社東日本事業本部長(現) 当社営業統括(現)	(注)2	35
取締役	専務 執行役員 社長室長	正田 良次	昭和19年8月29日生	昭和45年4月 平成6年4月 平成10年6月 平成10年10月 平成14年4月 平成18年4月 平成19年3月 平成20年4月 平成22年4月 平成22年10月 平成23年4月	当社入社 当社東京本店リニューアル部長 当社取締役 当社東京本店副本店長 当社札幌支店長 当社取締役常務執行役員 当社東京本店副本店長 当社東京本店長 当社取締役専務執行役員(現) 当社東京本店・横浜支店・関東支 店・関信越支店統括 当社首都圏事業本部副事業本部長 当社社長室長(現)	(注)2	54
取締役	専務 執行役員 経営企画 本部長 兼 関係会社 担当	河原 肇	昭和22年9月3日生	昭和47年4月 平成11年4月 平成18年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成22年10月 平成23年4月 平成23年6月 平成24年4月	当社入社 当社業務本部秘書部長 当社執行役員 当社東京本店副本店長 当社営業本部副本部長 当社常務執行役員 当社営業本部副本部長兼首都圏営 業本部副本部長 当社営業本部副本部長兼首都圏事 業本部首都圏営業本部副本部長 当社経営企画本部長兼関係会社担 当(現) 当社経営企画本部秘書部長 当社取締役常務執行役員 当社取締役専務執行役員(現)	(注)2	33

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務 執行役員 東日本 事業本部 副事業 本部長 兼 東日本 事業本部 東京本店長	谷 口 笑 雄	昭和24年 1月26日生	昭和46年 4月 平成13年 4月 平成17年 4月 平成18年 4月 平成20年 4月 平成20年 6月 平成22年 4月 平成22年10月 平成23年 4月	当社入社 当社広島支店技術部長兼品質・ 環境部長 当社広島支店長 当社執行役員 当社常務執行役員 当社取締役常務執行役員(現) 当社東京本店長 当社首都圏事業本部副事業本部長 兼首都圏事業本部東京本店長 当社東日本事業本部副事業本部長 兼東日本事業本部東京本店長(現)	(注) 2	28
取締役	常務 執行役員 技術本部長 兼 購買本部長 兼 総合研究所 担当 兼 品質・環境 ・安全担当	樋 口 裕 幸	昭和24年 3月 4日生	昭和48年 4月 平成 8年 4月 平成13年 4月 平成18年 4月 平成20年 4月 平成22年 4月 平成22年 6月 平成22年10月 平成23年 4月 平成24年 4月	当社入社 当社大阪支店技術 3 部長 当社技術本部技術部長 当社執行役員 当社九州支店長 当社常務執行役員 当社技術本部長(現) 当社品質・環境担当 当社取締役常務執行役員(現) 当社品質・環境担当兼首都圏事業 本部副事業本部長兼首都圏事業本 部購買本部長 当社総合研究所担当兼品質・環境 ・安全担当(現) 当社購買担当 当社購買本部長(現)	(注) 2	24
取締役	常務 執行役員 エンジニア リング事業 本部長 兼 海外現法 関係担当	渡 部 純 三	昭和25年 5月17日生	昭和48年 4月 平成11年 4月 平成13年 4月 平成18年 4月 平成20年 4月 平成22年 6月 平成23年 4月 平成24年 4月	当社入社 当社東京本店設計 2 部長 当社東京本店産業空調統括部長 当社執行役員 当社産業空調事業本部長 当社常務執行役員 当社取締役常務執行役員(現) 当社エンジニアリング事業本部長 (現) 当社海外現法関係担当(現)	(注) 2	12
取締役	常務 執行役員 経理本部長 兼 総務本部 担当 兼 情報 システム 本部担当	島 泰 光	昭和23年 7月 8日生	昭和47年 4月 平成13年 4月 平成16年 4月 平成20年10月 平成23年 4月 平成23年 6月	当社入社 当社横浜支店管理部長 当社名古屋支店管理部長 当社執行役員 当社経理本部長(現) 当社常務執行役員 当社総務本部担当兼情報システム 本部担当(現) 当社取締役常務執行役員(現)	(注) 2	26
取締役	常務 執行役員 西日本 事業本部長	大 垣 明	昭和23年11月 4日生	昭和46年 4月 平成11年 4月 平成12年 4月 平成16年 8月 平成18年 4月 平成22年 4月 平成23年 4月 平成23年 6月	当社入社 当社大阪支店営業 1 部長 当社大阪支店副支店長 当社大阪支店副支店長 当社執行役員 当社常務執行役員 当社西日本事業本部長(現) 当社取締役常務執行役員(現)	(注) 2	12

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務 執行役員 東日本 事業本部 関信越 支店長	神 杉 恵 助	昭和27年3月6日生	昭和51年10月 平成16年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年4月 平成22年4月 平成22年10月 平成23年4月 平成24年4月 平成24年6月	当社入社 当社東京本店設計部長 当社産業空調事業本部営業部長 当社産業空調事業本部副事業本部長 当社執行役員 当社関信越支店長 当社首都圏事業本部関信越支店長 当社東日本事業本部関信越支店長(現) 当社常務執行役員 当社取締役常務執行役員(現)	(注) 2	7
取締役	常務 執行役員 営業 本部長	松 浦 卓 也	昭和27年12月8日生	昭和51年4月 平成15年4月 平成16年4月 平成18年4月 平成22年4月 平成23年4月 平成24年4月 平成24年6月	当社入社 当社営業本部営業企画部長 当社経営企画本部営業企画部長 当社営業本部営業企画部長 当社執行役員 当社営業本部副本部長 当社常務執行役員 当社営業本部長(現) 当社取締役常務執行役員(現)	(注) 2	8
監査役 (常勤)		大和田 克 美	昭和20年8月17日生	昭和45年4月 平成3年4月 平成6年4月 平成14年4月 平成16年4月 平成18年4月 平成19年6月	当社入社 当社東京本店設計1部副部長 当社札幌支店副支店長兼営業部長 当社東京本店品質・環境部長 当社東京本店副本店長兼品質・環境部長 当社常勤顧問 当社常勤監査役(現)	(注) 3	25
監査役 (常勤)		石 井 仲次郎	昭和23年6月21日生	昭和47年4月 平成17年4月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年1月 平成21年4月 平成21年6月	当社入社 当社横浜支店長 当社執行役員 当社経営企画本部CSR推進室長 当社総務本部人事部長 当社総務本部人事部担当 当社常勤監査役(現)	(注) 4	16
監査役 (常勤)		西 村 眞 二	昭和30年11月8日生	昭和53年4月 平成15年12月 平成19年4月 平成20年4月 平成22年4月 平成23年4月 平成24年4月 平成24年6月	第一生命保険(相)(現第一生命保険㈱)入社 同社年金推進部部長 同社営業第六部長 同社総合法人第一部長 同社補佐役兼法人業務部長 同社支配人補佐役兼法人業務部長 同社支配人補佐役兼関連事業部部長 当社常勤監査役(現)	(注) 5	
監査役		藤 巻 克 平	昭和22年2月2日生	昭和48年9月 昭和51年4月 平成18年6月	司法試験合格 弁護士登録 当社監査役(現)	(注) 6	4
計							339

(注) 1 監査役西村眞二および藤巻克平は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間。

3 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

4 平成21年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

5 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

6 平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間。

- 7 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名を選出しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
豊嶋 秀直	昭和14年3月30日生	昭和37年9月 平成12年11月 平成13年10月	司法試験合格 福岡高等検察庁検事長 弁護士登録	(注)	

(注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

- 8 当社は執行役員制度を導入しており、提出日現在の執行役員は次のとおりであります。は取締役兼任者であります。

役 職		氏 名
社長執行役員		大内 厚
副社長執行役員	営業統括兼東日本事業本部長	川田 信雄
専務執行役員	社長室長	正田 良次
専務執行役員	経営企画本部長兼関係会社担当	河原 肇
常務執行役員	東日本事業本部副事業本部長 兼東日本事業本部東京本店長	谷口 笑雄
常務執行役員	技術本部長兼購買本部長兼総合研究所担当 兼品質・環境・安全担当	樋口 裕幸
常務執行役員	エンジニアリング事業本部長兼海外現法関係担当	渡部 純三
常務執行役員	経理本部長兼総務本部担当兼情報システム本部担当	島 泰光
常務執行役員	西日本事業本部長	大垣 明
常務執行役員	東日本事業本部関信越支店長	神杉 恵助
常務執行役員	営業本部長	松浦 卓也
専務執行役員	社長補佐	宇野 克彦
常務執行役員	社長室特命担当	西山 修
常務執行役員	技術本部副本部長	柴田 義人
常務執行役員	東日本事業本部副事業本部長兼営業統括部長	中村 勝
常務執行役員	東日本事業本部営業推進担当	河野 敏章
常務執行役員	東日本事業本部東京本店副本店長	榎本 伸二
常務執行役員	西日本事業本部副事業本部長 兼西日本事業本部大阪支店長	中村 章
常務執行役員	西日本事業本部名古屋支店長	鎌田 兼清
執行役員	総務本部長	西部 邦夫
執行役員	総務本部人事部長	山本 幸利
執行役員	営業本部副本部長	藤井 義郎
執行役員	東日本事業本部営業推進担当	梶原 賢二
執行役員	東日本事業本部営業推進担当	近藤 邦弘
執行役員	東日本事業本部技術統括部長兼技術統括部購買部長	迹田 保典
執行役員	東日本事業本部東京本店副本店長	高原 長一
執行役員	東日本事業本部東北支店長	岡野 史明
執行役員	西日本事業本部大阪支店副支店長	織田 邦男
執行役員	西日本事業本部名古屋支店副支店長兼技術1部長	井上 貴夫
執行役員	西日本事業本部九州支店長	田淵 潤
執行役員	西日本事業本部広島支店長	安原 晴敏
執行役員	エンジニアリング事業本部副事業本部長 兼環境設備事業部長	山崎喜久夫
執行役員	エンジニアリング事業本部産業設備事業部長	植野 壮二
執行役員	エンジニアリング事業本部海外事業部長	福本 和行

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、社会からの信頼を獲得し、中長期的に企業価値を高めるべく経営の適法性・透明性および迅速性を確保し、経営効率の向上を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としております。

会社の機関の内容および内部統制システムの整備の状況(平成24年6月28日現在)

(イ) 会社の機関の基本説明および内容

(a) 企業統治の体制

(概要)

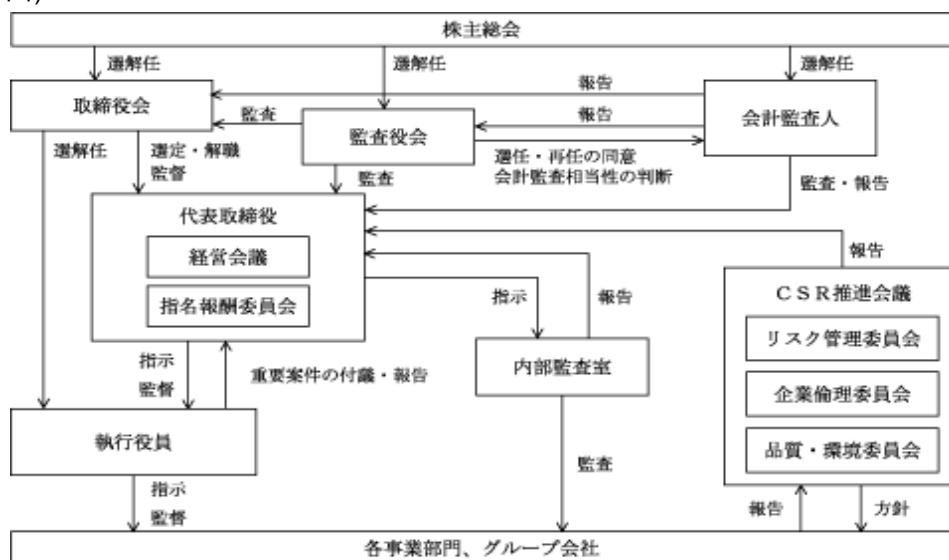
当社は、取締役会および監査役会を設置しております。また、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確にし、迅速かつ機動的な経営を行うため、平成18年4月より執行役員制度を導入しております。当社は、業務執行部門である取締役および執行役員が機動的な業務執行を行うこと、また、監査役、会計監査人および内部監査室が相互に連携をとり、実効性のある監査を行うことによりコーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

取締役会は、現在11名（社外取締役は存せず）で構成されており、原則として毎月1回開催するほか必要に応じて随時開催しております。取締役の任期は1年であり、経営責任を明確化しております。また、社外監査役は、取締役会に出席して客観的・専門的見地から有用な指摘、意見を述べるなど社外役員に期待される役割を果たすよう努めております。

取締役会は、重要な業務執行の決定と取締役の職務の執行の監督を行うことにより、経営の効率性の向上と業務執行の適法性・妥当性の確保に取り組んでおります。執行役員は、取締役会が決定した経営方針に従って機動的な業務執行に努めるとともに、適宜、業務執行の状況を取締役会に報告しております。

そのほか、原則として代表取締役をもって構成し、当社グループの基本的事項と重要事項を協議する経営会議や、取締役および執行役員の選解任や報酬等を審議する指名報酬委員会を設置しております。また、支店長会議等を定期的に行い、業務執行の効率化を図っております。

(概念図)



(内部統制システムに関する基本的な考え方およびその整備状況)

当社は、業務の有効性と効率性および信頼性の確保を図り、業務の適正を確保することを内部統制システムの基本的な考え方としております。

当社における内部統制システムの整備状況は下記の通りであります。

a 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

() 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するため、企業倫理担当役員の任命、企業倫理委員会や相談窓口の設置、内部通報制度の充実を図るなどコンプライアンス体制を整備しております。

() コンプライアンスの徹底を図るためグループ行動指針を制定し、継続的な教育・研修を実施しております。

b 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の記録・保存、情報漏洩や不正使用の防止および情報の有効活用のため文書管理に関する規程や情報セキュリティ基本方針を定めるなど、会社情報の適正な管理体制を整備しております。

c 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

() リスク管理規程を定め、リスク発生の未然防止のためのリスク管理およびリスク発生時には的確に対応できる体制を整備しております。

() 品質・安全・環境・コンプライアンス・情報・損益等の機能別リスクについては、対応する部門を定め、適切なリスク管理体制を整備しております。

d 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

() 執行役員制度の導入により経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確にし、迅速かつ効率的な経営を推進しております。

() 意思決定の迅速化や業務執行などの経営の効率化を図るため、業務分掌規程、職務権限規程、決裁基準などの規程を整備しております。

e 当社およびその子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

() 子会社における経営に関しては、その自主性を尊重しつつ、重要事項についての協議および報告ルールを関係会社管理規程に定めるなど経営管理体制を整備しております。

() 当社と基本的な考え方を共有するため、グループ共有ルールの制定や子会社各社の社内規程を整備することにより企業集団としてのリスク管理体制やコンプライアンス体制の構築に取り組んでおります。

() 内部監査室による監査を実施するとともに、必要に応じて取締役および監査役の派遣等を通じて子会社の適正な業務執行を監視しております。

() 財務報告の適正性と信頼性を確保するために必要な内部統制体制を整備しております。

f 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役の職務を補助するため監査役室を設置し、監査役の求めに応じて監査役の職務を補助する使用人を1名選任し、監査役室に配置しております。

g 監査役を補助する使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の職務を補助する使用人の人事に関する事項は、監査役と協議して決定しております。

h 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役および使用人から監査役への報告事項については、監査役監査環境整備規程を制定し、法定事項のほか当社や子会社に著しい損害を及ぼす事象、社内不祥事や法令違反等の重大な不正行為、内部監査の結果や内部通報の状況などについて報告する体制を整備しております。

i その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- () 代表取締役社長は、監査役と定期的会合を持ち、会社が対処すべき課題、監査役監査の環境整備の状況および監査上の重要課題について意見交換を行い、相互の意思疎通を図っております。
- () 監査役と内部監査室および会計監査人が、定期的に監査の状況について協議し、情報の共有と連携を図り、効果的かつ効率的な監査を行っております。

j 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

反社会的勢力・団体との関係を遮断するため、グループ行動指針に反社会的勢力・団体に対しては断固とした態度で対応し一切の関係を持たない旨定め、教育・研修を通じた周知徹底や外部専門機関との連携を図るなど実践的対応が可能な社内体制を整備しております。

(責任限定契約の内容の概要)

当社と各社外監査役は、当該社外監査役において、会社法第423条第1項の責任について、その職務を行うことにつき善意でかつ重大な過失がなかったときは、会社法第425条第1項各号に定める金額の合計額を限度として損害賠償責任を負担する旨の責任限定契約を締結しております。

(b) 監査部門の状況

内部監査につきましては、社長直轄部門として内部監査室（スタッフ5名）を設置し、内部監査規程に基づき、独立した立場から業務運営の適正性や効率性に関して計画的に業務監査を実施しております。また、子会社については必要に応じて情報交換等を行っております。内部監査室は、監査結果を社長に報告するとともに、必要な措置および改善の実施状況の確認を行っております。また、当社および重要な連結子会社の財務報告に係る内部統制の運用状況の評価を行っております。監査役および会計監査人とも連携を図り、効果的な内部監査の実施に努めております。

当社の監査役は4名で、うち2名は社外監査役であります。監査役は、監査役会が定めた監査方針・監査計画に従い、ガバナンスの実施状況の監視、取締役会その他重要な会議への出席、取締役の職務執行の監査、重要な決裁書類の閲覧および事業所の往査を実施しており、また、会計監査人および内部監査部門と連携をとるなど、実効性ある監査により取締役の職務執行の監査に努めております。子会社については、子会社の取締役および監査役等と情報交換を行い、連携を図っております。社外監査役は独立した立場から社外情報の収集と提供を行っており、また、弁護士である社外監査役および金融機関出身である社外監査役は、それぞれ独立した立場から情報の入手と提供を行い、ともに外部の視点からの監視に努めております。また、社外監査役は、各部門の担当者から直接情報伝達等を受けているほか、通常は、取締役会に先立ち開催される監査役会においても、主として常勤監査役から議案に関する資料などについて事前説明を受けております。一方、他の監査役は当社における豊富な経験に基づき、業務に精通した立場から監視を行っており、それぞれの立場から監査の実効性を高めております。

監査役と内部監査部門の連携につきましては、監査役は、内部監査室から、定期および随時に、監査の実施状況および結果の報告を受けるとともに、情報の共有を通じて相互の連携を図り、監査の実効性を高めております。

監査役と会計監査人の連携につきましては、監査役は、年度初めに監査体制・監査計画等について協議を行い、また、会計監査人から定期的に監査の実施状況および結果の報告を受けるとともに、必要に応じて会計監査人の実施する監査への立会いを行っております。監査役は、会計監査人と情報・意見交換などの連携を図ることにより、監査の実効性を高めております。

(c) 社外役員の状況

現在、当社は社外取締役を選任しておりませんが、監査役4名のうち2名は社外監査役であり、また、弁護士および金融機関出身者であります。各社外監査役は、独立した立場および外部の客観的な視点から、実効性の高い監査を行う役割を担っており、現状の体制で経営の監視機能を十分に果たしているものと考えております。社外監査役の西村眞二は、第一生命保険㈱の出身であるところ、当社は、同社との間に、工事の受注および保険の加入等、通常の営業取引関係を有しておりますが、当該取引については、当社の受注高および費用総額に占める割合は小さいこと等に照らして、株主・投資者の判断に影響を及ぼすおそれはないと判断されることから、取引の概要の記載を省略しております。その他当社と各社外監査役との間において特別の利害関係はありません。なお、当社は、社外監査役の藤巻克平を東京証券取引所有価証券上場規程に定める独立役員に指定し、同取引所に届け出ております。

社外取締役および社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準または方針につきまして、当社は東京証券取引所の上場管理等に関するガイドラインにおいて定められている独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。かかる独立役員の独立性に関する判断基準は以下のとおりです。

- a 当社の親会社又は兄弟会社の業務執行者でないこと
- b 当社を主要な取引先とする者若しくはその業務執行者又は当社の主要な取引先若しくはその業務執行者でないこと
- c 当社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家又は法律専門家（当該財産を得ている者が法人、組合等の団体である場合は、当該団体に所属する者をいう。）でないこと
- d 最近においてaから前cまでに該当していた者でないこと
- e 次の（a）から（c）までのいずれかに掲げる者（重要でない者を除く。）の近親者でないこと
 - （a） aから前dまでに掲げる者
 - （b） 当社又はその子会社の業務執行者（社外監査役を独立役員として指定する場合には、業務執行者でない取締役又は会計参与（当該会計参与が法人である場合は、その職務を行うべき社員を含む。以下同じ。）を含む。）
 - （c） 最近において前（b）に該当していた者

また、社外取締役については経営の監督およびチェック機能発揮に必要な豊富な経験と幅広い知識を有すること、社外監査役については弁護士等の専門性を有すること、または適切な監査に必要な豊富な経験と幅広い知識を有することを候補者としての要件としております。

(d) 役員の報酬等

(当社役員区分ごとの当事業年度に係る報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数)

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	株式報酬型 ストック オプション	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	400	321	61	17		14
社外取締役						
監査役 (社外監査役を除く)	43	43				2
社外監査役	33	33				2
合 計	478	399	61	17		18

- (注) 1 上記の取締役(社外取締役を除く)の賞与の額61百万円は、当事業年度末時点の取締役(社外取締役を除く)11名に対する役員賞与として引当金を計上した金額であります。
- 2 上記の株式報酬型ストックオプションは、当事業年度において株式報酬費用として計上した額であり、当該ストックオプションの報酬等の総額である21百万円との差額4百万円を含んでおりません。
- 3 上記の対象となる役員の員数には、平成23年6月29日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役3名を含んでおります。

(当社の役員の報酬等の額またはその算定方法に係る決定に関する事項)

取締役および監査役の報酬については、株主総会の決議により取締役全員および監査役全員のそれぞれの報酬等の総額の最高限度額を決定しております。

当社は、指名報酬委員会の判断を経て、取締役会の決議により取締役の報酬等を決定いたします。当社の取締役の報酬等は、基本報酬、賞与および株式報酬型ストックオプションにより構成されております。基本報酬の額は各取締役の役位に応じて決定され、賞与の個人別支給額は各取締役の業績や職務、貢献度等を総合的に勘案し決定いたします。また、株式報酬型ストックオプションは、中長期的な業績向上と企業価値向上への貢献意欲等を一層高めることを目的に、役位に応じて決定いたします。なお、社外取締役に対する賞与および株式報酬型ストックオプションはございません。

監査役に対する報酬等については、基本報酬のみとし、各監査役の基本報酬の額は、各監査役の職務の内容・量・難易度や責任の程度等を総合的に勘案し、監査役の協議により決定いたします。その職務等に鑑み、監査役に対する賞与およびストックオプション等の株式関連報酬はございません。

なお、当社は、平成23年6月29日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって取締役および監査役に対する退職慰労金制度を廃止いたしました。

(e) 当社の株式の保有状況

(保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式)

銘柄数	147銘柄
貸借対照表計上額の合計額	21,361百万円

(保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額および保有目的)

前事業年度末(平成23年3月31日)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三越伊勢丹ホールディングス	2,063,840	1,545	工事受注を主とした取引関係維持強化
三菱地所(株)	1,020,000	1,435	工事受注を主とした取引関係維持強化
アステラス製薬(株)	400,000	1,232	工事受注を主とした取引関係維持強化
松竹(株)	1,493,000	897	工事受注を主とした取引関係維持強化
日東電工(株)	200,000	882	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)ニコン	507,000	869	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)きんでん	1,030,726	775	建築設備工事会社間の連携維持強化
(株)関電工	1,318,000	619	建築設備工事会社間の連携維持強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,586,338	609	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
三菱倉庫(株)	464,000	431	工事受注を主とした取引関係維持強化
東海旅客鉄道(株)	647	426	工事受注を主とした取引関係維持強化
コニカミノルタホールディングス(株)	603,000	420	工事受注を主とした取引関係維持強化
阪急阪神ホールディングス(株)	1,014,400	389	工事受注を主とした取引関係維持強化
ヒューリック(株)	443,500	320	工事受注を主とした取引関係維持強化
東日本旅客鉄道(株)	64,000	296	工事受注を主とした取引関係維持強化
あすか製薬(株)	399,000	295	工事受注を主とした取引関係維持強化
セイコーエプソン(株)	200,000	266	工事受注を主とした取引関係維持強化
西日本旅客鉄道(株)	800	256	工事受注を主とした取引関係維持強化
南海電気鉄道(株)	768,800	255	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)T & Dホールディングス	121,640	249	工事受注を主とした取引関係維持強化
東宝(株)	204,100	243	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)山口フィナンシャルグループ	311,000	239	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
東急建設(株)	962,000	237	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)クボタ	300,000	235	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
(株)フジ・メディア・ホールディングス	2,010	233	工事受注を主とした取引関係維持強化
スルガ銀行(株)	300,000	221	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
麒麟ホールディングス(株)	200,000	218	工事受注を主とした取引関係維持強化

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
岡谷鋼機(株)	241,500	215	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	696,000	205	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
近畿日本鉄道(株)	702,622	187	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)歌舞伎座	50,000	178	工事受注を主とした取引関係維持強化
パナソニック(株)	168,000	177	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
飯野海運(株)	388,000	175	工事受注を主とした取引関係維持強化
高周波熱錬(株)	221,300	161	工事受注を主とした取引関係維持強化
京王電鉄(株)	322,900	160	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)高島屋	300,000	159	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)松屋	350,000	158	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)キッツ	373,000	149	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
東京急行電鉄(株)	422,440	145	工事受注を主とした取引関係維持強化
千代田化工建設(株)	186,000	141	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,001,920	138	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
(株)千葉銀行	294,000	137	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化

(注) 1 当社の資本金額は13,134百万円であります。

2 中央三井トラスト・ホールディングス(株)は、平成23年4月1日付で住友信託銀行(株)と経営統合し、三井住友トラスト・ホールディングス(株)に商号を変更しております。

3 パナソニック(株)は、平成23年4月1日付で三洋電機(株)を株式交換により、完全子会社化いたしました。これに伴い、当社が保有していた三洋電機(株)普通株式734,000株に対して同日付でパナソニック(株)普通株式84,410株の割当交付を受けた結果、当社は提出日現在、同社の普通株式252,410株を保有しております。

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	事業年度末日に おける時価 (百万 円)	保有目的
ショーボンドホールディングス(株)	415,000	920	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
清水建設(株)	1,800,000	666	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
住友不動産(株)	369,000	614	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
アステラス製薬(株)	80,000	246	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
(株)ツムラ	85,000	221	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。

(注) 1 当社の資本金額は13,134百万円であります。

2 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階において、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

3 事業年度末日における時価の欄は、みなし保有株式の事業年度末日における時価に議決権行使に関する指図権限の対象となる株式数を乗じて得た額を記載しております。

当事業年度末（平成24年3月31日）

特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
(株)三越伊勢丹ホールディングス	2,063,840	2,006	工事受注を主とした取引関係維持強化
三菱地所(株)	1,020,000	1,505	工事受注を主とした取引関係維持強化
アステラス製薬(株)	400,000	1,360	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)ニコン	507,000	1,273	工事受注を主とした取引関係維持強化
松竹(株)	1,493,000	1,164	工事受注を主とした取引関係維持強化
日東電工(株)	200,000	667	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)きんでん	1,030,726	657	建築設備工事会社間の連携維持強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,586,338	653	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
(株)関電工	1,318,000	529	建築設備工事会社間の連携維持強化
三菱倉庫(株)	464,000	453	工事受注を主とした取引関係維持強化
ヒューリック(株)	443,500	442	工事受注を主とした取引関係維持強化
東海旅客鉄道(株)	647	441	工事受注を主とした取引関係維持強化
コニカミノルタホールディングス(株)	603,000	435	工事受注を主とした取引関係維持強化
阪急阪神ホールディングス(株)	1,014,400	366	工事受注を主とした取引関係維持強化
東日本旅客鉄道(株)	64,000	333	工事受注を主とした取引関係維持強化
東宝(株)	204,100	310	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)フジ・メディア・ホールディングス	2,010	286	工事受注を主とした取引関係維持強化
南海電気鉄道(株)	768,800	270	工事受注を主とした取引関係維持強化
西日本旅客鉄道(株)	80,000	266	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)松屋	350,000	259	工事受注を主とした取引関係維持強化
スルガ銀行(株)	300,000	253	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
(株)クボタ	300,000	238	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
(株)山口フィナンシャルグループ	311,000	233	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
(株)T & Dホールディングス	243,280	233	工事受注を主とした取引関係維持強化
セイコーエプソン(株)	200,000	232	工事受注を主とした取引関係維持強化
近畿日本鉄道(株)	702,622	221	工事受注を主とした取引関係維持強化
岡谷鋼機(株)	241,500	214	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
キリンホールディングス(株)	200,000	214	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)高島屋	300,000	206	工事受注を主とした取引関係維持強化

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東急建設(株)	962,000	203	工事受注を主とした取引関係維持強化
あすか製菓(株)	399,000	201	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)歌舞伎座	50,000	198	工事受注を主とした取引関係維持強化
京王電鉄(株)	330,103	195	工事受注を主とした取引関係維持強化
千代田化工建設(株)	186,000	195	工事受注を主とした取引関係維持強化
パナソニック(株)	252,410	192	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	696,000	183	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
高周波熱錬(株)	221,300	168	工事受注を主とした取引関係維持強化
東京急行電鉄(株)	422,440	166	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,152,060	155	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
(株)千葉銀行	294,000	155	工事受注および借入れを主とした取引関係維持強化
飯野海運(株)	388,000	145	工事受注を主とした取引関係維持強化
(株)キッツ	373,000	134	工事受注および仕入れを主とした取引関係維持強化

(注) 当社の資本金額は13,134百万円であります。

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	事業年度末日に おける時価 (百万 円)	保有目的
ショーボンドホールディングス(株)	415,000	849	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
住友不動産(株)	369,000	736	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
清水建設(株)	1,800,000	597	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
アステラス製薬(株)	80,000	272	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。
(株)ツムラ	85,000	203	退職給付に備えるための信託財産であり、議決権行使に関する指図権限を有している。

(注) 1 当社の資本金額は13,134百万円であります。

- 2 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階において、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。
- 3 事業年度末日における時価の欄は、みなし保有株式の事業年度末日における時価に議決権行使に関する指図権限の対象となる株式数を乗じて得た額を記載しております。

(保有目的が純投資目的である投資株式)

該当事項はありません。

(ロ) 会計監査の状況

当社の会計監査につきましては、有限責任 あずさ監査法人と監査契約を締結しており、会計監査業務を執行した公認会計士は和田正夫氏(継続監査年数4年)、園田博之氏(同5年)および岩瀬弘典氏(同3年)の3名、その補助者は公認会計士7名、その他4名であります。

取締役の定数

当社は、取締役を12名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

取締役の選任は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってする旨および累積投票によらない旨定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

(イ) 自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

(ロ) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもってする旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	69	3	67	5
連結子会社		3		6
計	69	7	67	11

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社は、会計監査人に対して、国際財務報告基準に関するアドバイザリー業務について委託し対価を支払っております。

当連結会計年度

当社は、会計監査人に対して、関連会社株式取得にかかる財務調査業務について委託し対価を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

当社の事業規模の観点から、往査内容および監査日数等を勘案したうえ、決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表および財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)第2条の規定に基づき、同規則および「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、財務諸表を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入するとともに、監査法人等が主催するセミナーへの参加や会計専門書の定期購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	1 21,367	1 20,019
受取手形・完成工事未収入金等	99,884	122,261
有価証券	-	773
未成工事支出金等	2, 3 4,127	2, 3 3,222
繰延税金資産	2,165	1,891
その他	7,293	6,713
貸倒引当金	109	149
流動資産合計	134,728	154,732
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4 7,983	7,931
機械装置及び運搬具	695	782
工具器具・備品	2,889	3,148
土地	4 2,328	2,167
建設仮勘定	23	5
減価償却累計額	7,715	8,294
有形固定資産合計	6,205	5,739
無形固定資産		
投資その他の資産	1,064	997
投資有価証券	5 20,976	5 24,294
長期貸付金	120	119
前払年金費用	1,555	1,847
繰延税金資産	1,214	491
差入保証金	2,586	2,608
保険積立金	3,479	3,357
その他	3,793	3,905
貸倒引当金	455	554
投資損失引当金	104	104
投資その他の資産合計	33,167	35,964
固定資産合計	40,438	42,702
資産合計	175,166	197,434

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	52,250	63,992
短期借入金	3,476	4,968
未払金	20,114	23,476
未払法人税等	1,787	1,416
未成工事受入金	2,728	2,869
役員賞与引当金	42	130
完成工事補償引当金	578	511
工事損失引当金	2,850	2,840
損害補償損失引当金	756	-
その他	6,419	8,827
流動負債合計	91,004	109,033
固定負債		
長期借入金	40	90
退職給付引当金	1,167	1,300
役員退職慰労引当金	402	129
長期未払金	-	149
繰延税金負債	-	223
その他	764	735
固定負債合計	2,374	2,628
負債合計	93,379	111,662
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,134	13,134
資本剰余金	12,854	12,854
利益剰余金	62,300	64,630
自己株式	6,341	7,308
株主資本合計	81,948	83,311
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24	1,114
為替換算調整勘定	317	351
その他の包括利益累計額合計	293	763
新株予約権	-	44
少数株主持分	131	1,651
純資産合計	81,786	85,771
負債純資産合計	175,166	197,434

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	213,175	215,464
売上原価	1, 2 191,154	1, 2 192,892
売上総利益	22,021	22,572
販売費及び一般管理費		
従業員給料手当	6,114	6,579
退職給付費用	507	532
役員退職慰労引当金繰入額	95	27
事務用品費	1,553	1,626
貸倒引当金繰入額	53	41
地代家賃	2,303	2,302
減価償却費	463	434
その他	5,725	5,812
販売費及び一般管理費合計	2 16,816	2 17,357
営業利益	5,205	5,214
営業外収益		
受取利息	41	28
受取配当金	364	406
保険配当金	149	111
持分法による投資利益	-	790
為替差益	-	6
不動産賃貸料	262	279
その他	116	116
営業外収益合計	935	1,740
営業外費用		
支払利息	54	71
支払手数料	9	22
為替差損	51	-
貸倒引当金繰入額	40	106
不動産賃貸費用	34	32
その他	39	26
営業外費用合計	229	259
経常利益	5,910	6,695

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別利益		
段階取得に係る差益	-	52
前期損益修正益	3 7	-
投資有価証券売却益	105	28
投資有価証券受贈益	137	-
償却債権取立益	60	-
負ののれん発生益	-	870
退職給付制度改定益	172	-
損害補償損失引当金戻入額	-	547
その他	77	11
特別利益合計	559	1,510
特別損失		
固定資産除却損	4 8	4 15
減損損失	-	5 535
投資有価証券売却損	-	8
投資有価証券評価損	296	259
損害補償損失引当金繰入額	756	-
その他	60	94
特別損失合計	1,121	913
税金等調整前当期純利益	5,349	7,292
法人税、住民税及び事業税	2,690	2,074
過年度法人税等	121	-
法人税等調整額	454	985
法人税等合計	2,357	3,060
少数株主損益調整前当期純利益	2,991	4,232
少数株主損失()	11	36
当期純利益	3,003	4,269

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,991	4,232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,898	1,084
為替換算調整勘定	78	46
持分法適用会社に対する持分相当額	-	6
その他の包括利益合計	1,976	1,044
包括利益	1,015	5,276
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,030	5,325
少数株主に係る包括利益	15	49

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	13,134	13,134
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	13,134	13,134
資本剰余金		
当期首残高	12,854	12,854
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	12,854	12,854
利益剰余金		
当期首残高	61,236	62,300
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	3,003	4,269
当期変動額合計	1,064	2,330
当期末残高	62,300	64,630
自己株式		
当期首残高	6,339	6,341
当期変動額		
自己株式の取得	1	716
連結範囲の変動	-	74
持分法の適用範囲の変動	-	175
当期変動額合計	1	966
当期末残高	6,341	7,308
株主資本合計		
当期首残高	80,885	81,948
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	3,003	4,269
自己株式の取得	1	716
連結範囲の変動	-	74
持分法の適用範囲の変動	-	175
当期変動額合計	1,062	1,363
当期末残高	81,948	83,311

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,922	24
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,898	1,090
当期変動額合計	1,898	1,090
当期末残高	24	1,114
為替換算調整勘定		
当期首残高	242	317
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	75	33
当期変動額合計	75	33
当期末残高	317	351
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,680	293
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,973	1,056
当期変動額合計	1,973	1,056
当期末残高	293	763
新株予約権		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	44
当期変動額合計	-	44
当期末残高	-	44
少数株主持分		
当期首残高	147	131
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16	1,520
当期変動額合計	16	1,520
当期末残高	131	1,651
純資産合計		
当期首残高	82,713	81,786
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	3,003	4,269
自己株式の取得	1	716
連結範囲の変動	-	74
持分法の適用範囲の変動	-	175
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,989	2,621
当期変動額合計	926	3,984
当期末残高	81,786	85,771

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,349	7,292
減価償却費	750	709
減損損失	-	535
負ののれん発生益	-	870
貸倒引当金の増減額（ は減少）	65	127
完成工事補償引当金の増減額（ は減少）	194	66
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	60	88
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	82	542
工事損失引当金の増減額（ は減少）	1,942	6
損害補償損失引当金の増減額（ は減少）	756	756
のれん償却額	34	34
受取利息及び受取配当金	405	435
支払利息	54	71
為替差損益（ は益）	7	0
固定資産除却損	8	15
投資有価証券売却損益（ は益）	95	19
投資有価証券評価損益（ は益）	296	259
投資有価証券受贈益	137	-
段階取得に係る差損益（ は益）	-	52
持分法による投資損益（ は益）	-	790
売上債権の増減額（ は増加）	15,786	19,232
未成工事支出金等の増減額（ は増加）	18,009	910
仕入債務の増減額（ は減少）	1,685	15,156
未成工事受入金の増減額（ は減少）	13,592	142
未払消費税等の増減額（ は減少）	694	748
未収消費税等の増減額（ は増加）	19	1,033
その他	570	2,027
小計	3,132	2,828
利息及び配当金の受取額	425	435
利息の支払額	52	68
法人税等の支払額	3,180	2,626
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,939	569

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,168	962
定期預金の払戻による収入	1,287	1,142
有形及び無形固定資産の取得による支出	312	455
投資有価証券の取得による支出	181	691
投資有価証券の売却による収入	799	65
投資有価証券の償還による収入	514	149
関係会社株式の取得による支出	-	755
差入保証金の差入による支出	117	52
差入保証金の回収による収入	314	118
貸付けによる支出	3	2
保険積立金の積立による支出	178	245
保険積立金の払戻による収入	521	444
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	2 750
その他の支出	50	84
その他の収入	17	22
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,443	556
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	293	1,699
長期借入れによる収入	60	70
長期借入金の返済による支出	70	200
リース債務の返済による支出	27	69
自己株式の取得による支出	1	716
配当金の支払額	1,939	1,939
少数株主への配当金の支払額	1	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,273	1,157
現金及び現金同等物に係る換算差額	89	24
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	6,858	1,168
現金及び現金同等物の期首残高	27,091	20,232
現金及び現金同等物の期末残高	1 20,232	1 19,064

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 10社

連結子会社名は「第1 企業の状況 4 関係会社の状況」に記載のとおりです。

株式会社丸誠、株式会社丸誠環境システムズおよび株式会社エム・エス・エスは、当社が平成24年3月16日に株式会社丸誠の普通株式を追加取得し同社を子会社化したことに伴い、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を当連結会計年度末としているため、当連結会計年度は貸借対照表のみ連結しております。

(2) 非連結子会社数 7社

非連結子会社名は次のとおりです。

高砂熱学工業(香港)有限公司

T.T.E.エンジニアリング(マレーシア)Sdn.Bhd.

タカサゴベトナムCo.,Ltd.

中電高砂工程諮詢有限公司

タカサゴフィリピンInc.

P.T.タカサゴエンジニアリングインドネシア

PT TOKYO TECHNICAL SERVICE INDONESIA

(3) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

高砂熱学工業(香港)有限公司他6社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社の数 1社

持分法適用会社の名称 日本設備工業株式会社

日本設備工業株式会社は、当社が平成24年2月29日に普通株式を取得し関連会社となったことに伴い、当連結会計年度より持分法を適用しております。

(2) 持分法非適用の非連結子会社名は次のとおりです。

高砂熱学工業(香港)有限公司

T.T.E.エンジニアリング(マレーシア)Sdn.Bhd.

タカサゴベトナムCo.,Ltd.

中電高砂工程諮詢有限公司

タカサゴフィリピンInc.

P.T.タカサゴエンジニアリングインドネシア

PT TOKYO TECHNICAL SERVICE INDONESIA

(3) 持分法非適用の関連会社名は次のとおりです。

苫小牧熱供給㈱

上記(2)、(3)の持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外連結子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、各決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、上記以外の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

未成工事支出金

個別法による原価法

商品及び製品、材料貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は主として定率法を採用しており、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

なお、在外連結子会社については定額法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、耐用年数については主として法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じる会計処理を引き続き採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

投資損失引当金

子会社等に対する投資損失に備えるため、財政状態並びに将来の回復見込み等を勘案して、必要額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づいて計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、当連結会計年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

工事損失引当金

当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が合理的に見込まれるものについて将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上しております。

損害補償損失引当金

(追加情報)

前連結会計年度に発生した顧客施設に損害を与える事象に関して、関係当事者との協議を進めてまいりました結果、当社は208百万円の損害補償を行うこととなりました。

このことに伴い、前連結会計年度末に損害補償損失引当金756百万円を計上済みでありますところ、当連結会計年度に208百万円を取り崩すとともに、当該引当金との差額547百万円を連結財務諸表の特別利益「損害補償損失引当金戻入額」として計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額を計上しております。ただし、連結会計年度末における年金資産の見込額が、退職給付債務見込額に未認識数理計算上の差異を加減した額を超える場合には、その超過額を前払年金費用として投資その他の資産に計上しております。

数理計算上の差異は、主として、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

なお、一部の国内連結子会社は簡便法によっております。

(追加情報)

当社は、平成23年3月18日開催の取締役会の決議により、平成23年6月29日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって執行役員に対する退職慰労金制度を廃止いたしました。また、同定時株主総会において、取締役および監査役に対し、在任期間に対応する退職慰労金を打切り支給することとし、その支給の時期は各取締役および監査役の退任時とすること(以下「打切り支給」といいます。)が決議されたことに伴い、執行役員に対しても同様に打切り支給することといたしました。

このことに伴い、同定時株主総会終結の時までの期間に対応する退職給付引当金249百万円は、連結財務諸表の流動負債「未払金」および固定負債「長期末払金」に振り替えるとともに、当連結会計年度においてその一部を支給しております。

役員退職慰労引当金

連結子会社の取締役および監査役の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(追加情報)

当社は、平成23年3月18日開催の取締役会の決議および平成23年4月20日開催の監査役会における監査役の協議により、平成23年6月29日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって取締役および監査役に対する退職慰労金制度を廃止いたしました。また、同定時株主総会において、取締役および監査役に対する打切り支給が決議されました。

このことに伴い、同定時株主総会終結の時までの期間に対応する役員退職慰労引当金92百万円は、連結財務諸表の固定負債「長期末払金」に振り替えて表示しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

完成工事高の計上は、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、153,954百万円であります。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産・負債及び収益・費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における「その他の包括利益累計額」の「為替換算調整勘定」及び「少数株主持分」に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果が発現すると見積られる期間で償却し、その金額が僅少なものについては発生年度に全額償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

- 1 下記の資産は、仕入債務を担保するために質権設定に供しております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
現金預金(定期預金)	29百万円	29百万円

- 2 未成工事支出金等に属する資産の科目及びその金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未成工事支出金	3,381百万円	2,559百万円
商品及び製品	402	344
仕掛品	8	22
材料貯蔵品	335	296
計	4,127	3,222

- 3 前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金等と工事損失引当金は、相殺せずに両建て表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は139百万円となっております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金等と工事損失引当金は、相殺せずに両建て表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は89百万円となっております。

- 4 前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

有形固定資産の取得価額から直接減額している圧縮記帳額は166百万円であります。

- 5 このうち非連結子会社及び関連会社に対する金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	271百万円	1,661百万円

6 保証債務

下記の連結会社以外の会社の金融機関からの借入債務に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
高砂熱学工業(香港)有限公司	12百万円	80百万円

下記の連結会社以外の会社の工事請負に係る金融機関の工事履行保証に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
高砂熱学工業(香港)有限公司	48百万円	151百万円
T.T.E.エンジニアリング (マレーシア)Sdn.Bhd.	12	24
タカサゴベトナムCo.,Ltd.	2	
計	63	176

7 貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関6社と貸出コミットメント契約を締結しております。

貸出コミットメント契約の総額は3,000百万円で当連結会計年度末の実行残高はありません。

(連結損益計算書関係)

1 売上原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	2,804百万円	4,568百万円

2 研究開発費

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

一般管理費及び売上原価に含まれる研究開発費の総額は、935百万円であります。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

一般管理費及び売上原価に含まれる研究開発費の総額は、996百万円であります。

3 前期損益修正益

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
貸倒引当金戻入益	7百万円	

4 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	3百万円	12百万円
機械装置及び運搬具	0	0
工具器具・備品	5	1
無形固定資産	0	0
計	8	15

5 減損損失

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社グループは、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	金額
福利厚生施設 計6件	建物および土地	静岡県裾野市 他	535百万円

減損損失の算定にあたっては、遊休資産および賃貸資産については個別物件ごとに、その他の資産については、管理会計上の区分を単位としてグルーピングを行っております。

上記の資産については、使用目的の変更を行ったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額535百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物が231百万円、土地が303百万円であります。

なお、回収可能価額の算定については、正味売却価額により測定しており、その評価は主に不動産鑑定評価基準に準じる方法に基づいて算出しております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

 その他有価証券評価差額金

当期発生額	1,348百万円
組替調整額	244
税効果調整前	1,593
税効果額	508
その他有価証券評価差額金	1,084

為替換算調整勘定

当期発生額	46
-------	----

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	6
-------	---

その他の包括利益合計	1,044
------------	-------

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	85,765,768			85,765,768

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,190,096	1,944		8,192,040

(注) 株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	969百万円	12円50銭	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年11月11日 取締役会	普通株式	969百万円	12円50銭	平成22年9月30日	平成22年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	969百万円	12円50銭	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	85,765,768			85,765,768

2 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,192,040	1,533,245		9,725,285

(注) 株式数の増加の主な内訳は次のとおりであります。

取締役会決議に基づく東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)によるもの	1,150,000株
連結範囲の変動による増加	115,486
持分法の適用範囲の変動による増加	266,232

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権					44	
合計						44	

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	969百万円	12円50銭	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年11月11日 取締役会	普通株式	969百万円	12円50銭	平成23年9月30日	平成23年12月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	955百万円	12円50銭	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金預金勘定	21,367百万円	20,019百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	1,135	955
現金及び現金同等物	20,232	19,064

2 普通株式の追加取得により新たに連結子会社となった会社の資産および負債の主な内訳

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

普通株式の追加取得により新たに(株)丸誠を連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに(株)丸誠株式の取得価額と(株)丸誠取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	5,210百万円
固定資産	1,363
流動負債	1,437
固定負債	405
負ののれん発生益	870
段階取得に係る差益	52
支配獲得前保有株式	113
少数株主持分	1,608
(株)丸誠株式の取得価額	2,085
(株)丸誠の現金及び現金同等物の残高	2,836
差引：連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	750

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

電話交換設備、汎用コンピュータおよび通信機器であります。(工具器具・備品)

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	10百万円	6百万円
1年超	12	5
合計	22	12

3 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じる会計処理によっております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	機械装置及び運搬具	工具器具・備品	合計
取得価額相当額	41百万円	28百万円	70百万円
減価償却累計額相当額	18	23	41
期末残高相当額	22	5	28

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	機械装置及び運搬具	工具器具・備品	合計
取得価額相当額	41百万円	11百万円	53百万円
減価償却累計額相当額	22	9	32
期末残高相当額	18	1	20

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	8百万円	5百万円
1年超	23	18
合計	31	23

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	19百万円	9百万円
減価償却費相当額	18	8
支払利息相当額	1	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はないため、項目等の記載は省略しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産で行い、銀行等金融機関からの借入により資金調達しております。

(2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクにさらされておりますが、当社は債権管理規程に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとの期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクにさらされておりますが、定期的に把握された時価が取締役に報告されています。また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、1年以内の支払期日であります。短期借入金および長期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、変動金利の借入金であるため金利の変動リスクにさらされておりますが、基本的にリスクの低い短期のものに限定しております。営業債務や借入金は、流動性リスクにさらされておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結決算日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません。(注) 2 参照)

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金預金	21,367	21,367	
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	99,884	99,883	0
(3) 投資有価証券	19,388	19,388	
資産計	140,640	140,639	0
(1) 支払手形・工事未払金等	52,250	52,250	
(2) 短期借入金	3,276	3,276	
(3) 未払金	20,114	20,114	
(4) 長期借入金	240	236	3
負債計	75,881	75,878	3

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金預金	20,019	20,019	
(2) 受取手形・完成工事未収入金等	122,261	122,261	0
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	237	237	0
その他有価証券	21,852	21,852	
資産計	164,370	164,370	1
(1) 支払手形・工事未払金等	63,992	63,992	
(2) 短期借入金	4,948	4,948	
(3) 未払金	23,476	23,476	
(4) 長期借入金	110	109	0
負債計	92,526	92,526	0

(注) 1 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形・完成工事未収入金等

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間および信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(3) 投資有価証券および(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格または取引金融機関から提示された価格によっております。また、有価証券について定められた注記事項は、「有価証券関係」に記載してあります。

負債

(1) 支払手形・工事未払金等、(2) 短期借入金及び(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定してあります。なお、連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は1年以内返済予定の長期借入金を含めてあります。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位:百万円)

区分	平成23年3月31日	平成24年3月31日
非上場株式	1,588	2,977

上記につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」および「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1)現金預金	21,367			
(2)受取手形・完成工事未収入金等	99,752	132		
(3)投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの 債券 社債 その他		404		82
計	121,119	536		82

当連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1)現金預金	20,019			
(2)受取手形・完成工事未収入金等	122,163	97		
(3)有価証券及び投資有価証券 満期保有目的の債券 その他 その他有価証券のうち満期があるもの 債券 社債 その他	138	99	510	372
計	142,756	249	510	372

4 長期借入金

長期借入金の連結決算日後の返済予定額については、「連結附属明細表 借入金等明細表」に記載しております。

[次へ](#)

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 時価が連結貸借対照表 計上額を超えるもの	国債・地方債等 社債 その他			
	小計			
(2) 時価が連結貸借対照表 計上額を超えないもの	国債・地方債等 社債 その他	237	237	0
	小計	237	237	0
	合計	237	237	0

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式 債券 国債・地方債等 社債 その他 その他	10,245 404	7,604 400	2,640 3
	小計	10,650	8,005	2,644
(2) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式 債券 国債・地方債等 社債 その他 その他	8,542 82 112	11,211 99 135	2,668 16 22
	小計	8,738	11,446	2,708
	合計	19,388	19,451	63

当連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式 債券 国債・地方債等 社債 その他 その他	13,068 401 	9,553 400 	3,515 0
	小計	13,469	9,954	3,515
(2) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式 債券 国債・地方債等 社債 その他 その他	7,146 510 658 67	8,988 524 671 80	1,841 14 13 13
	小計	8,382	10,264	1,882
合計		21,852	20,218	1,633

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式 債券 国債・地方債等 社債 その他 その他	290 42	105	0 9
合計	332	105	9

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	175	28	
債券			
国債・地方債等			
社債			
その他			
その他	40		8
合計	215	28	8

4 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日）

当連結会計年度において、有価証券について291百万円（その他有価証券の上場株式291百万円）減損処理を行っております。

なお、当該株式の減損処理にあたっては、個々の銘柄毎の時価が取得原価に対して50%以上下落した場合は著しく下落したものとして行っており、下落率が30～50%の場合には当連結会計年度における時価水準を把握し、回復可能性を検討した上で行っております。

当連結会計年度（自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日）

当連結会計年度において、有価証券について259百万円（その他有価証券の上場株式259百万円）減損処理を行っております。

なお、当該株式の減損処理にあたっては、個々の銘柄毎の時価が取得原価に対して50%以上下落した場合は著しく下落したものとして行っており、下落率が30～50%の場合には当連結会計年度における時価水準を把握し、回復可能性を検討した上で行っております。

[次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

重要なデリバティブ取引はありません。

(退職給付会計関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は退職一時金制度に加え、規約型確定給付企業年金と確定拠出年金を組み合わせた退職給付制度を採用し、退職一時金制度の一部には、退職給付信託を設定しております。

一部の国内連結子会社は、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項(平成23年3月31日)

(1) 退職給付債務 (注) 2	17,070百万円
(2) 年金資産	13,782
(3) 未積立退職給付債務((1) + (2))	3,287
(4) 未認識数理計算上の差異	3,676
(5) 未認識過去勤務債務	
(6) 連結貸借対照表計上額純額((3) + (4) + (5))	388
(7) 前払年金費用	1,555
(8) 退職給付引当金((6) - (7))	1,167

(注) 1 一部の国内連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

2 「(1)退職給付債務」には、執行役員退職慰労金の期末要支給額276百万円を含んでおります。

3 退職給付費用に関する事項(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(1) 勤務費用 (注) 1、2	618百万円
(2) 利息費用	394
(3) 期待運用収益	354
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	568
(5) 過去勤務債務の費用処理額	
(6) 退職給付費用((1) + (2) + (3) + (4) + (5))	1,227
(7) その他 (注) 3	192
(8) 退職給付制度改定益 (注) 4	172
計	1,247

(注) 1 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。

2 「(1)勤務費用」は、取締役を兼任しない執行役員分31百万円を含んでおります。

3 「(7)その他」は、確定拠出年金への掛金支払額であります。

4 規約型確定給付企業年金制度における給付利率を引き下げたことにより、過去勤務債務(債務の減額)が発生しておりますが、当連結会計年度に一括処理しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	2.0%
(3) 期待運用収益率	2.5%
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	
(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生 の翌連結会計年度から費用処理しております。)

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は退職一時金制度に加え、規約型確定給付企業年金と確定拠出年金を組み合わせた退職給付制度を採用し、退職一時金制度の一部には、退職給付信託を設定しております。

一部の国内連結子会社は、規約型確定給付企業年金制度、確定拠出年金制度および退職一時金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項(平成24年3月31日)

(1) 退職給付債務	17,946百万円
(2) 年金資産	15,379
(3) 未積立退職給付債務((1) + (2))	2,566
(4) 未認識数理計算上の差異	3,114
(5) 未認識過去勤務債務	
(6) 連結貸借対照表計上額純額((3) + (4) + (5))	547
(7) 前払年金費用	1,847
(8) 退職給付引当金((6) - (7))	1,300

(注) 一部の国内連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(1) 勤務費用 (注) 1	616百万円
(2) 利息費用	317
(3) 期待運用収益	344
(4) 数理計算上の差異の費用処理額	638
(5) 過去勤務債務の費用処理額	
(6) 退職給付費用((1) + (2) + (3) + (4) + (5))	1,228
(7) その他 (注) 2	192
計	1,420

(注) 1 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。

2 「(7)その他」は、確定拠出年金への掛金支払額であります。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(2) 割引率	2.0%
(3) 期待運用収益率	2.5%
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	
(5) 数理計算上の差異の処理年数	主として、10年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。)

(ストック・オプション等関係)

1 費用計上額及び科目名

科目名	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費の その他	百万円	44百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

ストック・オプションの内容

会社名	提出会社
決議年月日	平成23年7月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 11名 当社執行役員（当社取締役を兼任している者を除く） 23名
株式の種類及び付与数	当社普通株式 102,200株（注）1
付与日	平成23年8月11日
権利確定条件	（注）2
対象勤務期間	当社取締役 平成23年6月29日～平成24年6月28日 当社執行役員（当社取締役を兼任している者を除く） 平成23年4月1日～平成24年3月31日
権利行使期間	平成23年8月12日～平成53年8月11日

（注）1 新株予約権の目的となる株式の数（以下「付与株式数」という。）は、100株とする。

ただし、新株予約権を割り当てる日（以下「割当日」という。）以降、当社が当社普通株式につき、株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）または株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。なお、かかる調整は、新株予約権のうち当該時点で行使されていない付与株式数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割または株式併合の比率

また、上記の他、割当日後、当社が合併、会社分割または株式交換を行う場合、およびその他これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合、当社は取締役会において必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

2 新株予約権の行使の条件

（1）新株予約権の割当てを受けた者（以下「新株予約権者」という。）は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した日（以下「地位喪失日」という。）の翌日以降、新株予約権を行使することができる。ただし、この場合、新株予約権者は、地位喪失日の翌日から10日以内（10日目の日が営業日でない場合には翌営業日）に限り、新株予約権を行使することができる。

（2）上記（1）ただし書にかかわらず、新株予約権者が新株予約権の行使期間内に死亡したことにより当社の取締役および執行役員のいずれの地位をも喪失した場合は、相続開始後6月以内に限り、その相続人が、当社所定の手続に従い、当該新株予約権者が付与された権利の範囲内で新株予約権を行使できるものとする。ただし、相続人死亡による再相続は認めない。

（3）新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができない。

ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成24年3月31日)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

a スtock・オプションの数

会社名	提出会社
決議年月日	平成23年7月22日
権利確定前	
前連結会計年度末(株)	
付与(株)	102,200
失効(株)	
権利確定(株)	
未確定残(株)	102,200
権利確定後	
前連結会計年度末(株)	
権利確定(株)	
権利行使(株)	
失効(株)	
未行使残(株)	

b 単価情報

会社名	提出会社
決議年月日	平成23年7月22日
権利行使価格(円)	1
行使時平均株価(円)	
付与日における公正な評価単価(円)	488

3 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

使用した算定技法

ブラック・ショールズ式

使用した主な基礎数値及びその見積方法

a 株価変動性 38.897%

5年間（平成18年8月11日から平成23年8月10日まで）の各取引日における当社普通株式の普通取引の終値に基づき算出した株価変動率

b 予想残存期間 5年

c 予想配当 25円/株

平成23年3月期の配当実績による

d 無リスク利子率 0.360%

平成23年8月10日の国債利回り（残存期間5年）

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	141百万円	171百万円
投資有価証券評価損	432	270
その他有価証券評価差額金	87	
ゴルフ会員権評価損	354	324
ソフトウェア開発費	308	264
未払事業税	166	138
完成工事補償引当金	226	179
工事損失引当金	1,137	1,059
損害補償損失引当金	306	
退職給付引当金	1,487	1,344
役員退職慰労引当金	154	45
その他	1,113	1,472
繰延税金資産小計	5,916	5,270
評価性引当額	959	1,057
繰延税金資産合計	4,957	4,212
繰延税金負債		
前払年金費用	631百万円	700百万円
その他有価証券評価差額金		524
退職給付信託設定益	946	827
繰延税金負債合計	1,578	2,052
繰延税金資産の純額	3,379	2,159

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
永久に損金に算入されない項目	5.3	3.5
永久に益金に算入されない項目	3.6	2.3
評価性引当額	2.0	4.5
受取配当金連結消去に伴う影響額	1.7	1.0
過年度法人税等	1.6	
負ののれん発生益		4.8
持分法による投資利益		4.4
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		2.8
その他	0.5	1.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.1	42.0

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律および東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。このことにより、繰延税金資産および繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る。）に使用する法定実効税率が変更されたことに伴い、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した額）が121百万円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が203百万円、その他有価証券評価差額金が81百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

企業結合の概要

a 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	株式会社丸誠
事業の内容	ビルメンテナンス

b 企業結合を行った主な理由

当社グループは、株式会社丸誠が有する保守管理や運転監視などの設備管理やそれらの遂行体制のノウハウを活用し、設備総合管理事業の強化を図ることを目的としております。

c 企業結合日

平成24年3月16日

d 企業結合の法的形式

現金を対価とする普通株式の取得（公開買付け）

e 結合後企業の名称

株式会社丸誠

f 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	5.12%
企業結合日に追加取得した議決権比率	60.87%
取得後の議決権比率	65.99%

(注) 上記の取得した議決権比率については、株式会社丸誠の第53期第3四半期報告書（平成24年2月13日提出）に記載された、平成23年12月31日現在の発行済株式総数（5,540,000株）から、同日現在の自己株式数（133,300株）を除いた数（5,406,700株）を分母として計算し、小数点以下第三位を四捨五入しております。

連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

当連結会計年度末日（平成24年3月31日）をみなし取得日として連結しているため、当連結会計年度の連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

被取得企業の取得原価及びその内訳

被取得企業の取得原価 2,251百万円

取得原価の内訳

取得の対価	2,140百万円
株式取得に直接要した費用(アドバイザー費用等)	110百万円

被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 52百万円

負ののれん発生益の金額及び発生原因

a 負ののれん発生益 870百万円

b 発生原因

企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったことによります。

企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	5,210百万円
固定資産	1,363
資産合計	6,573
流動負債	1,437
固定負債	405
負債合計	1,842

企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響額の概算額及びその算定方法

売上高	11,937百万円
営業利益	316
経常利益	410
税金等調整前当期純利益	332
当期純利益	111

(注) 概算額の算定方法

概算額については、企業結合が当連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高及び損益情報と当社連結損益計算書における売上高及び損益状況との差額に、当該期間に係る少数株主損益の調整を行い算出しております。なお、本注記は監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成23年3月31日)

当社グループ各社の本社および各支店事務所については、その多くが不動産賃貸借契約に基づき、事務所の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する貸借資産の使用期限は明確でなく、提出日現在において本社および各支店事務所を移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

当社グループ各社の本社および各支店事務所については、その多くが不動産賃貸借契約に基づき、事務所の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する貸借資産の使用期限は明確でなく、提出日現在において本社および各支店事務所を移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

また、それ以外のものについては、重要性がないため、資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

[前△](#)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社およびグループ各社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、空調設備の技術を核として、一般設備と産業設備の設計・施工、保守等を行う設備工事業および空調機器等の設計・製造・販売を行う設備機器の製造・販売事業で構成されております。

したがって、当社グループにおいては、「設備工事業」と「設備機器の製造・販売事業」の2つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益、資産およびその他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益、資産およびその他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2) (注4) (注5)	連結 財務諸表 計上額 (注3)
	設備工事 事業	設備機器 の製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	206,193	6,820	213,014	161	213,175		213,175
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	1,080	1,080	49	1,130	1,130	
計	206,194	7,901	214,095	211	214,306	1,130	213,175
セグメント利益	4,823	306	5,129	51	5,180	24	5,205
セグメント資産	166,911	8,129	175,041	1,178	176,219	1,053	175,166
その他の項目							
減価償却費	544	182	726	13	740	10	750
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	314	832	1,147	12	1,159	713	446

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の売買・賃貸、保険代理店等であります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去であります。

5 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。

6 日本フロダ株(連結子会社)の事業は、従来、「設備工事業」に区分しておりましたが、事業の内容を見直したことにより、当連結会計年度から「設備機器の製造・販売事業」に変更しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2) (注4) (注5)	連結 財務諸表 計上額 (注3)
	設備工事 事業	設備機器 の製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	208,372	6,922	215,295	168	215,464		215,464
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	1,466	1,467	41	1,509	1,509	
計	208,373	8,389	216,763	210	216,973	1,509	215,464
セグメント利益	4,734	423	5,158	52	5,210	4	5,214
セグメント資産	188,576	8,976	197,552	1,172	198,725	1,291	197,434
その他の項目							
減価償却費	500	195	696	13	710	0	709
持分法適用会社への 投資額	1,390		1,390		1,390		1,390
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	290	183	473	7	481		481

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の売買・賃貸、保険代理店等
であります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメント資産の調整額は、セグメント間取引消去であります。

5 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、セグメント間取引消去であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 製品およびサービスごとの情報

製品およびサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略していません。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%未満のため、記載を省略してあります。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産合計が連結貸借対照表の有形固定資産合計の10%未満のため、記載を省略してあります。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
鹿島建設株式会社	23,935	設備工事業
株式会社竹中工務店	22,083	設備工事業

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品およびサービスごとの情報

製品およびサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略していません。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の10%未満のため、記載を省略してあります。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産合計が連結貸借対照表の有形固定資産合計の10%未満のため、記載を省略してあります。

3 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する売上高が、外部顧客への売上高合計の10%未満のため、記載を省略してあります。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	全社・消去	連結 財務諸表 計上額
	設備工事 事業	設備機器 の製造・ 販売事業	計				
減損損失	535		535		535		535

【報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	全社・消去	連結 財務諸表 計上額
	設備工事 事業	設備機器 の製造・ 販売事業	計				
当期償却額	1	33	34		34		34
当期末残高	3	148	152		152		152

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	全社・消去	連結 財務諸表 計上額
	設備工事 事業	設備機器 の製造・ 販売事業	計				
当期償却額	1	33	34		34		34
当期末残高	2	115	118		118		118

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

「設備工事業」において、(株)丸誠の普通株式を追加取得することにより連結子会社といたしました。

このことに伴い、当連結会計年度において、(株)丸誠の普通株式の取得にかかる負ののれん発生益(870百万円)を計上しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業内容	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容 (注) 2	取引金額 (百万円) (注) 1	科目	期末残高 (百万円) (注) 1
関連会社	日本設備工業(株)	東京都千代田区	460	空調設備等の施工	(所有) 直接 34.55	仕入先、役員の兼任なし	空調設備工事等の発注	5,052	工事未払金	3,629

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件および取引条件の決定方針等

価格その他の取引条件は、個々の工事について見積りの提出を受け、その都度、交渉により取引金額を決定しております。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	1,052円62銭	1,105円66銭
1株当たり当期純利益金額	38円72銭	55円23銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		55円19銭

(注) 1 前連結会計年度における潜在株式調整後の1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	81,786	85,771
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	131	1,696
(うち新株予約権) (百万円)	()	(44)
(うち少数株主持分) (百万円)	(131)	(1,651)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	81,655	84,075
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (株)	77,573,728	76,040,483

(2) 1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	3,003	4,269
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	3,003	4,269
普通株式の期中平均株式数 (株)	77,574,933	77,305,669
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額		
当期純利益調整額 (百万円)		
普通株式増加数 (株)		60,256
(うち新株予約権) (株)	()	(60,256)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,276	4,948	2.3	
1年以内に返済予定の長期借入金	200	20	1.6	
1年以内に返済予定のリース債務	63	79		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	40	90	1.7	平成25年6月～ 平成27年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	662	635		平成25年4月～ 平成38年3月
その他有利子負債				
合計	4,242	5,773		

(注) 1 「平均利率」については、借入金の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務は、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

2 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	20	70		
リース債務	83	62	57	50

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

	第1四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	第3四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	第132期 連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
売上高 (百万円)	33,152	83,401	131,676	215,464
税金等調整前四半期 純損失()または 税金等調整前当期 純利益 (百万円)	1,537	475	1,303	7,292
四半期純損失() または当期純利益 (百万円)	942	484	1,296	4,269
1株当たり四半期 純損失()または 1株当たり当期純利益 (円)	12.15	6.25	16.71	55.23

	第1四半期 連結会計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	第2四半期 連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	第3四半期 連結会計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	第4四半期 連結会計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)
1株当たり四半期 純利益または 1株当たり四半期 純損失() (円)	12.15	5.90	10.46	72.56

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	17,420	12,382
受取手形	2,895	4,062
完成工事未収入金	91,477	109,478
有価証券	-	400
未成工事支出金	¹ 3,371	¹ 2,521
材料貯蔵品	8	6
前払費用	100	68
繰延税金資産	1,933	1,462
未収入金	4,222	3,419
立替金	1,665	1,594
その他	301	296
貸倒引当金	100	117
流動資産合計	123,297	135,574
固定資産		
有形固定資産		
建物	² 5,587	5,258
減価償却累計額	3,580	3,624
建物(純額)	2,006	1,633
構築物	284	280
減価償却累計額	224	228
構築物(純額)	60	52
機械及び装置	35	37
減価償却累計額	33	34
機械及び装置(純額)	2	2
車両運搬具	10	10
減価償却累計額	10	10
車両運搬具(純額)	0	0
工具器具・備品	2,132	2,145
減価償却累計額	1,231	1,233
工具器具・備品(純額)	900	912
土地	² 1,493	1,190
建設仮勘定	0	4
有形固定資産合計	4,464	3,796
無形固定資産		
ソフトウェア	626	529
電話加入権	94	94
その他	1	1
無形固定資産合計	721	625

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	20,642	22,026
関係会社株式	2,251	5,206
出資金	2	2
長期貸付金	120	119
破産更生債権等	376	359
長期前払費用	60	67
前払年金費用	1,555	1,847
繰延税金資産	909	-
差入保証金	2,447	2,365
保険積立金	3,451	3,249
長期預金	2,300	2,300
その他	499	532
貸倒引当金	455	553
投資損失引当金	104	104
投資その他の資産合計	34,058	37,417
固定資産合計	39,244	41,839
資産合計	162,541	177,414

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	7,839	8,850
工事未払金	5 41,197	5 50,868
短期借入金	2,230	2,520
リース債務	20	31
未払金	20,160	23,412
未払費用	2,440	2,601
未払法人税等	1,569	719
未成工事受入金	2,555	2,413
預り金	2,968	4,374
役員賞与引当金	-	61
完成工事補償引当金	476	421
工事損失引当金	1 2,667	1 2,759
損害補償損失引当金	756	-
その他	1	1
流動負債合計	84,882	99,034
固定負債		
長期借入金	40	90
長期未払金	-	149
リース債務	293	305
退職給付引当金	276	-
役員退職慰労引当金	304	-
繰延税金負債	-	223
その他	12	12
固定負債合計	927	780
負債合計	85,809	99,815

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,134	13,134
資本剰余金		
資本準備金	12,853	12,853
資本剰余金合計	12,853	12,853
利益剰余金		
利益準備金	3,283	3,283
その他利益剰余金		
配当平均積立金	656	656
退職給与積立金	940	940
別途積立金	42,878	42,878
繰越利益剰余金	9,299	9,761
利益剰余金合計	57,058	57,519
自己株式	6,341	7,058
株主資本合計	76,705	76,450
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	25	1,103
評価・換算差額等合計	25	1,103
新株予約権	-	44
純資産合計	76,731	77,599
負債純資産合計	162,541	177,414

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
完成工事高	192,203	195,049
完成工事原価	¹ 174,887	¹ 177,241
完成工事総利益	17,316	17,808
販売費及び一般管理費		
役員報酬	434	399
役員賞与引当金繰入額	-	61
従業員給料手当	4,227	4,633
役員退職慰労金	66	2
役員退職慰労引当金繰入額	69	5
株式報酬費用	-	44
退職給付費用	430	453
法定福利費	654	747
福利厚生費	293	303
修繕維持費	120	125
事務用品費	1,408	1,484
通信交通費	641	683
動力用水光熱費	120	104
調査研究費	348	421
広告宣伝費	272	224
貸倒引当金繰入額	44	22
交際費	295	334
寄付金	67	43
地代家賃	2,003	2,013
減価償却費	283	268
租税公課	264	251
保険料	248	245
雑費	535	511
販売費及び一般管理費合計	² 12,832	² 13,386
営業利益	4,483	4,422
営業外収益		
受取利息	³ 22	³ 15
有価証券利息	13	8
受取配当金	³ 597	³ 579
受取保険金	17	22
保険配当金	149	110
不動産賃貸料	³ 312	279
その他	69	62
営業外収益合計	1,183	1,078
営業外費用		
支払利息	39	39
支払手数料	9	22
為替差損	46	2
貸倒引当金繰入額	³ 40	³ 106
不動産賃貸費用	34	32
その他	45	16
営業外費用合計	216	219
経常利益	5,450	5,280

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	4 40	-
投資有価証券売却益	105	28
投資有価証券受贈益	137	-
償却債権取立益	60	-
退職給付制度改定益	172	-
損害補償損失引当金戻入額	-	547
その他	73	3 11
特別利益合計	589	586
特別損失		
固定資産除却損	5 6	5 13
減損損失	-	6 535
投資有価証券売却損	-	8
投資有価証券評価損	291	259
ゴルフ会員権等退会損	12	-
損害補償損失引当金繰入額	756	-
その他	50	92
特別損失合計	1,117	909
税引前当期純利益	4,922	4,957
法人税、住民税及び事業税	2,352	1,560
過年度法人税等	107	-
法人税等調整額	394	996
法人税等合計	2,065	2,556
当期純利益	2,856	2,400

【完成工事原価報告書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		51,712	29.6	53,479	30.2
労務費		18,349	10.5	17,052	9.6
(うち労務外注費)		(18,349)	(10.5)	(17,052)	(9.6)
外注費		73,632	42.1	80,652	45.5
経費		31,192	17.8	26,055	14.7
(うち人件費)		(14,834)	(8.5)	(13,072)	(7.4)
計		174,887	100.0	177,241	100.0

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	13,134	13,134
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	13,134	13,134
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	12,853	12,853
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	12,853	12,853
資本剰余金合計		
当期首残高	12,853	12,853
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	12,853	12,853
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	3,283	3,283
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,283	3,283
その他利益剰余金		
配当平均積立金		
当期首残高	656	656
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	656	656
退職給与積立金		
当期首残高	940	940
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	940	940
別途積立金		
当期首残高	42,878	42,878
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	42,878	42,878
繰越利益剰余金		
当期首残高	8,382	9,299
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	2,856	2,400
当期変動額合計	917	461
当期末残高	9,299	9,761

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
利益剰余金合計		
当期首残高	56,140	57,058
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	2,856	2,400
当期変動額合計	917	461
当期末残高	57,058	57,519
自己株式		
当期首残高	6,339	6,341
当期変動額		
自己株式の取得	1	716
当期変動額合計	1	716
当期末残高	6,341	7,058
株主資本合計		
当期首残高	75,789	76,705
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	2,856	2,400
自己株式の取得	1	716
当期変動額合計	916	255
当期末残高	76,705	76,450
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,916	25
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,890	1,077
当期変動額合計	1,890	1,077
当期末残高	25	1,103
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,916	25
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,890	1,077
当期変動額合計	1,890	1,077
当期末残高	25	1,103
新株予約権		
当期首残高	-	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	44
当期変動額合計	-	44
当期末残高	-	44

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
純資産合計		
当期首残高	77,706	76,731
当期変動額		
剰余金の配当	1,939	1,939
当期純利益	2,856	2,400
自己株式の取得	1	716
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,890	1,122
当期変動額合計	974	867
当期末残高	76,731	77,599

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 未成工事支出金

個別法による原価法

(2) 材料貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じる会計処理を引き続き採用しております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

子会社等に対する投資損失に備えるため、財政状態並びに将来の回復見込み等を勘案して、必要額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

取締役に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づいて計上しております。

(4) 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、当事業年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

(5) 工事損失引当金

当事業年度末手持工事のうち損失の発生が合理的に見込まれるものについて将来の損失に備えるため、その損失見込額を計上しております。

(6) 損害補償損失引当金

(追加情報)

前事業年度に発生した顧客施設に損害を与える事象に関して、関係当事者との協議を進めてまいりました結果、当社は208百万円の損害補償を行うこととなりました。

このことに伴い、前事業年度末に損害補償損失引当金756百万円を計上済みでありますところ、当事業年度に208百万円を取り崩すとともに、当該引当金との差額547百万円を財務諸表の特別利益「損害補償損失引当金戻入額」として計上しております。

(7) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるために、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額を計上しております。ただし、当事業年度末における年金資産見込額が、退職給付債務見込額に未認識数理計算上の差異を加減した額を超えておりますので、その超過額を前払年金費用として投資その他の資産に計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(追加情報)

当社は、平成23年3月18日開催の取締役会の決議により、平成23年6月29日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって執行役員に対する退職慰労金制度を廃止いたしました。また、同定時株主総会において、取締役および監査役に対し、在任期間に対応する退職慰労金を打切り支給することとし、その支給の時期は各取締役および監査役の退任時とすること(以下「打切り支給」といいます。)が決議されたことに伴い、執行役員に対しても同様に打切り支給することといたしました。

このことに伴い、同定時株主総会終結の時までの期間に対応する退職給付引当金249百万円は、財務諸表の流動負債「未払金」および固定負債「長期未払金」に振り替えるとともに、当事業年度においてその一部を支給しております。

(8) 役員退職慰労引当金

(追加情報)

当社は、平成23年3月18日開催の取締役会の決議および平成23年4月20日開催の監査役会における監査役の協議により、平成23年6月29日開催の第131回定時株主総会終結の時をもって取締役および監査役に対する退職慰労金制度を廃止いたしました。また、同定時株主総会において、取締役および監査役に対する打切り支給が決議されました。

このことに伴い、同定時株主総会終結の時までの期間に対応する役員退職慰労引当金92百万円は、財務諸表の固定負債「長期未払金」に振り替えて表示しております。

6 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

完成工事高の計上は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準による完成工事高は、143,591百万円であります。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は137百万円となっております。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は89百万円となっております。

2 前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

有形固定資産の取得価額から直接減額している圧縮記帳額は166百万円であります。

3 保証債務

下記の関係会社の金融機関からの借入債務に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
タイタカサゴCo.,Ltd.	137百万円	2,509百万円
高砂熱学工業(香港)有限公司	12	80
計	149	2,590

下記の関係会社の工事請負に係る金融機関の工事履行保証に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
タカサゴシンガポールPte.Ltd.	0百万円	68百万円
タイタカサゴCo.,Ltd.		237
高砂熱学工業(香港)有限公司	48	151
T.T.E.エンジニアリング (マレーシア)Sdn.Bhd.	12	24
タカサゴベトナムCo.,Ltd.	2	
計	63	482

下記の関係会社の金融機関からのリース債務に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
日本開発興産(株)	391百万円	357百万円

4 貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引金融機関6社と貸出コミットメント契約を締結しております。

貸出コミットメント契約の総額は3,000百万円で当事業年度末の実行残高はありません。

5 関係会社に対する資産および負債

このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
工事未払金	1,108百万円	5,311百万円

(損益計算書関係)

1 完成工事原価に含まれている工事損失引当金繰入額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	2,625百万円	4,568百万円

2 研究開発費

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、861百万円であります。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

一般管理費に含まれる研究開発費の総額は、896百万円であります。

3 関係会社との取引

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取利息	0百万円	0百万円
受取配当金	241	181
不動産賃貸料	49	
貸倒引当金繰入額	40	1
関係会社清算益		11

なお、上記のうち、関係会社清算益につきましては、損益計算書の特別利益「その他」に含めて記載しております。

4 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	39百万円	百万円
構築物	0	
計	40	

5 固定資産除却損の内訳

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	2百万円	11百万円
機械及び装置		0
工具器具・備品	4	1
計	6	13

6 減損損失

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社は、以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	金額
福利厚生施設 計6件	建物および土地	静岡県裾野市 他	535百万円

減損損失の算定にあたっては、遊休資産および賃貸資産については個別物件ごとに、その他の資産については、管理会計上の区分を単位としてグルーピングを行っております。

上記の資産については、使用目的の変更を行ったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額535百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。その内訳は、建物が231百万円、土地が303百万円であります。

なお、回収可能価額の算定については、正味売却価額により測定しており、その評価は主に不動産鑑定評価基準に準じる方法に基づいて算出しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	8,190,096	1,944		8,192,040

(注) 株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	8,192,040	1,150,724		9,342,764

(注) 増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

取締役会決議に基づく東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)によるもの 1,150,000株

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

電話交換設備および通信機器であります。(工具器具・備品)

(2) リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2 オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	10百万円	6百万円
1年超	12	5
合計	22	12

3 リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の貸借取引に係る方法に準じる会計処理によっております。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前事業年度(平成23年3月31日)

	機械及び装置	工具器具・備品	合計
取得価額相当額	41百万円	7百万円	49百万円
減価償却累計額相当額	18	6	25
期末残高相当額	22	1	23

当事業年度(平成24年3月31日)

	機械及び装置	工具器具・備品	合計
取得価額相当額	41百万円	4百万円	46百万円
減価償却累計額相当額	22	4	27
期末残高相当額	18	0	18

(2) 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年以内	4百万円	4百万円
1年超	21	17
合計	26	21

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払リース料	12百万円	6百万円
減価償却費相当額	11	5
支払利息相当額	1	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はないため、項目等の記載は省略しております。

(有価証券関係)

前事業年度末（平成23年3月31日）

子会社および関連会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式2,163百万円、関連会社株式88百万円）は、市場価値がなく、時価が把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度末（平成24年3月31日）

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)子会社株式	2,198	1,691	507
(2)関連会社株式			
計	2,198	1,691	507

市場価値がなく、時価を把握することが極めて困難と認められる上記以外の子会社および関連会社株式（貸借対照表計上額 子会社株式2,163百万円、関連会社株式843百万円）は、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	139百万円	166百万円
投資有価証券評価損	428	269
その他有価証券評価差額金	85	
ゴルフ会員権評価損	344	320
ソフトウェア開発費	308	264
未払事業税	153	94
完成工事補償引当金	195	159
工事損失引当金	1,082	1,043
損害補償損失引当金	306	
退職給付引当金	1,133	955
役員退職慰労引当金	107	
その他	870	938
繰延税金資産小計	5,157	4,213
評価性引当額	736	923
繰延税金資産合計	4,421	3,289
繰延税金負債		
前払年金費用	631百万円	700百万円
その他有価証券評価差額金		522
退職給付信託設定益	946	827
繰延税金負債合計	1,578	2,050
繰延税金資産の純額	2,843	1,238

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳
前事業年度(平成23年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、当該差異の原因となった主な項目別の内訳の記載を省略しております。

当事業年度(平成24年3月31日)

法定実効税率	40.6%
(調整)	
永久に損金に算入されない項目	4.4
永久に益金に算入されない項目	3.3
評価性引当額	6.5
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	3.1
その他	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	51.6

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律および東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産および繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る。）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.6%から、回収または支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.9%、平成27年4月1日以降のものについては35.5%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した額）が72百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が153百万円、その他有価証券評価差額金が81百万円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項（企業結合等関係）」に同一の内容を記載しておりますので、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

前事業年度(平成23年3月31日)

当社の本社および各支店事務所については、不動産賃貸借契約に基づき、事務所の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する貸借資産の使用期限は明確でなく、提出日現在において本社および各支店事務所を移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当事業年度(平成24年3月31日)

当社の本社および各支店事務所については、不動産賃貸借契約に基づき、事務所の退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する貸借資産の使用期限は明確でなく、提出日現在において本社および各支店事務所を移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

また、それ以外のものについては、重要性がないため、資産除去債務を計上しておりません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	989円15銭	1,014円80銭
1株当たり当期純利益金額	36円83銭	31円02銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		31円00銭

(注) 1 前事業年度における潜在株式調整後の1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

項目	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	76,731	77,599
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)		44
(うち新株予約権) (百万円)	()	(44)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	76,731	77,554
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (株)	77,573,728	76,423,004

(2) 1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

項目	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	2,856	2,400
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	2,856	2,400
普通株式の期中平均株式数 (株)	77,574,933	77,396,595
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額		
当期純利益調整額 (百万円)		
普通株式増加数 (株)		60,256
(うち新株予約権) (株)	()	(60,256)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)三越伊勢丹ホールディングス	2,063,840	2,006
		三菱地所(株)	1,020,000	1,505
		アステラス製薬(株)	400,000	1,360
		(株)ニコン	507,000	1,273
		松竹(株)	1,493,000	1,164
		日東電工(株)	200,000	667
		(株)きんでん	1,030,726	657
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,586,338	653
		(株)関電工	1,318,000	529
		三菱倉庫(株)	464,000	453
		ヒューリック(株)	443,500	442
		東海旅客鉄道(株)	647	441
		コニカミノルタホールディングス(株)	603,000	435
		阪急阪神ホールディングス(株)	1,014,400	366
		東日本旅客鉄道(株)	64,000	333
		東宝(株)	204,100	310
		(株)西武ホールディングス	326,000	299
		(株)フジ・メディア・ホールディングス	2,010	286
		南海電気鉄道(株)	768,800	270
		西日本旅客鉄道(株)	80,000	266
		(株)松屋	350,000	259
		スルガ銀行(株)	300,000	253
		(株)世界貿易センタービルディング	140,000	250
		(株)クボタ	300,000	238
		(株)山口フィナンシャルグループ	311,000	233
		(株)T & Dホールディングス	243,280	233
		セイコーエプソン(株)	200,000	232
		近畿日本鉄道(株)	702,622	221
		岡谷鋼機(株)	241,500	214
		麒麟ホールディングス(株)	200,000	214
		(株)高島屋	300,000	206
		東急建設(株)	962,000	203
		あすか製薬(株)	399,000	201
		(株)歌舞伎座	50,000	198
		京王電鉄(株)	330,103	195
		千代田化工建設(株)	186,000	195
		パナソニック(株)	252,410	192
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	696,000	183
		高周波熱錬(株)	221,300	168
		東京急行電鉄(株)	422,440	166
		(株)みずほフィナンシャルグループ	1,152,060	155
		(株)千葉銀行	294,000	155
		新電元工業(株) A種優先株式	681,500	145
		飯野海運(株)	388,000	145
		(株)キッツ	373,000	134
		その他 (102銘柄)	5,201,074	2,640
計		28,486,650	21,361	

【債券】

銘柄		券面総額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
有価証券	その他 有価証券	ゼネラル・エレクトリック・キャピタル ・コーポレーション第7回円貨社債 (2002)	400
		小計	400
投資 有価証券	その他 有価証券	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	500
		その他(2銘柄)	101
		小計	601
計		1,001	997

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(証券投資信託受益証券) 国際投信投資顧問 グローバル・ソブリン・オープン バランス物語70(成長型) 一般コース	100,000,000
			20,000,000
		計	120,000,000
			50
			16
			67

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	5,587	32	361 (231)	5,258	3,624	162	1,633
構築物	284		4	280	228	7	52
機械及び装置	35	1		37	34	1	2
車両運搬具	10			10	10	0	0
工具器具・備品	2,132	95	81	2,145	1,233	82	912
土地	1,493	0	303 (303)	1,190			1,190
建設仮勘定	0	3		4			4
有形固定資産計	9,544	134	750 (535)	8,928	5,131	253	3,796
無形固定資産							
ソフトウェア	1,166	121		1,287	758	218	529
電話加入権	94			94			94
その他	2	0		3	1	0	1
無形固定資産計	1,263	122		1,385	760	218	625
長期前払費用	83	59	0	142	75	52	67
繰延資産							
繰延資産計							

(注) 1 「ソフトウェア」、「無形固定資産 その他」および「長期前払費用」については、当期首残高に前期末償却済の残高を含んでおらず、当期末残高には当期末償却済の残高を含んでおります。

2 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	555	245	8	121	671
投資損失引当金	104				104
役員賞与引当金		61			61
完成工事補償引当金	476	421	476		421
損害補償損失引当金	756		208	547	
工事損失引当金	2,667	5,489	4,476	921	2,759
役員退職慰労引当金	304	5	310		

- (注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。
 2 損害補償損失引当金の「当期減少額(その他)」は、損失額の確定による戻入額であります。
 3 工事損失引当金の「当期減少額(その他)」は、損失見込額の減少による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

(イ) 現金預金

区分	金額(百万円)
現金	4
預金	
当座預金	507
普通預金	11,373
定期預金	496
預金計	12,377
合計	12,382

(ロ) 受取手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
三菱電機冷熱プラント(株)	510
味の素エンジニアリング(株)	280
(株)熊谷組	265
東急建設(株)	236
コニカミノルタエンジニアリング(株)	196
その他	2,574
合計	4,062

(b) 決済月別内訳

決済月	金額(百万円)
平成24年 4月	666
5月	1,146
6月	820
7月	1,288
8月	93
9月	46
合計	4,062

(八) 完成工事未収入金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)竹中工務店	15,019
大成建設(株)	8,628
清水建設(株)	8,569
(株)大林組	7,630
鹿島建設(株)	5,994
その他	63,634
合計	109,478

(b) 滞留状況

計上期別	金額(百万円)
平成24年 3月期計上額	108,681
平成23年 3月期以前計上額	797
合計	109,478

(二) 未成工事支出金

期首残高 (百万円)	当期支出額 (百万円)	完成工事原価への振替額 (百万円)	期末残高 (百万円)
3,371	176,391	177,241	2,521

期末残高の内訳は次のとおりであります。

材料費	443百万円
労務費	216
外注費	709
経費	1,152
計	2,521

(ホ) 材料貯蔵品

品名	金額(百万円)
空調機器類他	6

負債の部

(イ) 支払手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
三菱商事(株)	844
住友商事マシネックス(株)	793
ジョンソンコントロールズ(株)	728
東亜設備(株)	290
高砂設備工事(株)	250
その他	5,942
合計	8,850

(b) 決済月別内訳

決済月	金額(百万円)
平成24年4月	1,758
5月	2,350
6月	2,618
7月	2,122
合計	8,850

(口) 工事未払金

相手先	金額(百万円)
日本設備工業(株)	3,629
(株)山武	2,406
東テク(株)	1,830
高砂エンジニアリングサービス(株)	996
住友商事マシネックス(株)	995
その他	41,009
合計	50,868

(注) (株)山武は、平成24年4月1日付でアズビル(株)に商号を変更しております。

(ハ) 未払金

相手先	金額(百万円)
みずほ信託銀行(株) (注)	22,498
その他	913
合計	23,412

(注) 仕入先との一括支払信託方式による支払債務であります。

(二) 未成工事受入金

期首残高 (百万円)	当期受入額 (百万円)	完成工事高への振替額 (百万円)	期末残高 (百万円)
2,555	91,408	91,550	2,413

(注) 損益計算書の完成工事高195,049百万円と上記完成工事高への振替額91,550百万円との差額103,499百万円は、完成工事未収入金の当期発生額108,681百万円から完成工事高に係る消費税等の当期発生未収納額5,181百万円を差し引いた残額であります。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	別途定める算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取った単元未満株式の数で按分した額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 (公告掲載URL) http://www.tte-net.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 1 中央三井信託銀行株式会社は、平成24年4月1日付で住友信託銀行株式会社および中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、商号を三井住友信託銀行株式会社に変更しております。変更後の概要は以下のとおりです。

取扱場所 (特別口座)
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株主名簿管理人 (特別口座)
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

- 2 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
会社法第189条第2項各号に掲げる権利
会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書およびその添付書類、確認書

事業年度 第131期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

平成23年6月29日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

平成23年6月29日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書および確認書

第132期第1四半期(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

平成23年8月11日関東財務局長に提出。

第132期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

平成23年11月11日関東財務局長に提出。

第132期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)

平成24年2月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）
の規定に基づく臨時報告書

平成23年6月30日関東財務局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

平成24年3月13日、平成24年4月10日 関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月28日

高砂熱学工業株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 正 夫

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 園 田 博 之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩 瀬 弘 典

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高砂熱学工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高砂熱学工業株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、高砂熱学工業株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、高砂熱学工業株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年 6月28日

高砂熱学工業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 正 夫

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 園 田 博 之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩 瀬 弘 典

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高砂熱学工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第132期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高砂熱学工業株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。